



令和5年度

研修集録

第38号



秋田市立秋田商業高等学校



「変えない勇気 ～教育の不易～」

校 長 瀧 澤 徳 彦

2023年は「まさか!」や「おやっ!」と感じる事が多い年だった。少し前に「想定外」という言葉が流行ったことで、人々の想定幅はかなり広がったが、それでもこの夏は未曾有の水害と酷暑に、秋からは熊に翻弄された。何か落ち着かない日々を過ごした印象があるが、そんなときこそ、私たちには揺るがない、支えとなる道標が必要だと強く感じた。

それは、今更言うまでもないことかもしれないが、教員としての授業は、一丁目一番地だということに尽きる。目の前の生徒に向き合い、日々の成長を見逃すことなく、自分の授業を省察すること。コロナ禍のオンライン授業の試みを経て、「授業は生き物」というその場の空気を大事にしながら、授業することの意義を改めて見いだしたことも忘れてはならない。もちろん、多様な学びに対応すべく、オンライン授業の可能性が広がっていることも否定はできない。しかし、学校での授業の本質を見つめ、日々授業改善する気持ちを持ち続ける、その先に多様な学びへのアプローチも見えてくると考えている。

私が高校在学中に習い、教員としても同職し、本校で長く教員を務められ、校訓を揮毫された熊谷弘先生は、定年後も70歳まで臨時講師として勤務し、現在83歳になるが、今も教壇に立ちたいと仰っている。それは、授業の本質を探るためだと。

では、授業の本質とは何か。そのひとつは授業の中での生徒理解、授業の中での生徒指導だと考えている。授業を通しての規律指導を実践し、その中で生徒との信頼関係を得ることは、効果的な指導に繋がる。商業教育における「豊かな人間性」の醸成は、指名されたら起立して返事をするなど、当たり前のやりとりの積み重ねによるものだ。その規律は、決して指導する教員のためのものではない。規律は生徒の学習環境と人間関係を整え、生徒の帰属意識を高めるためにある。その点でいえば、規律そのものが大事なのではなく、規律とは、投げ出さずに粘り強く考える、他者の言葉に耳を傾け尊重する、達成感や自己有用感を高める、ということの集大成であると言える。その意味で教員一人一人が授業の中で、自らの授業改善のテーマとして実践していくべき課題なのである。また、本校の教育活動のもう一つの核である部活動についても同様のことが言える。先生方や生徒には、「部活動も授業と同じだよ、教室がグラウンドに代わっただけで、やるべきことは同じだよ」と、常々話している。「不易流行」・・・WithコロナからAfterコロナへと、何か「変わる」ことが求められがちだが、教育の「変わらないこと」にもっと着目していいのではと考えている。

もう一つ、触れておきたい言葉がある。それは、「青春は密」から一年、今年度は「敗者復活」の四文字に集約された思いだ。「勝ち」より「負け」に学びがあるという言葉が決して負け惜しみに聞こえないのは不思議だ。それは、須江監督が勝敗は細部に宿るということを知り尽くしているからに他ならない。対戦チームのエンジョイベースボールも一躍脚光を浴びたが、彼は相手チームの真髄をしっかりと見極めていた。「エンジョイ」という言葉の背後にある、分厚い鍛錬の日々を、その優勝に感じ取っていたからだ。笑顔の陰に緻密さをたたえながら選手が日々の努力を重ねたことに最大の敬意を払った言葉だと感じた。彼は二連覇を目指したこの夏の戦いを慢心することなく、二度目の初優勝を獲りに行く、と表現した。確かに高校生活はどこを切り取っても同じ一年などあり得ない。情報科教員として、硬式野球部監督として、教室であろうとグラウンドであろうと常に「授業改善」する気持ちを持ち続け、日々、自己研鑽を積んでいる方の言葉は確かであると感じる。

変化の激しい時代において、情報化、グローバル化と、常に変化することが時代と生徒・保護者に即応することだと思い込み、足元を見失っていないだろうか。今こそ、揺るぎない信念を、これまでの経験値を抛り所にしながらも、日々刻々と変容し、成長する目の前の生徒理解に徹するという原点に立ち返るときだと実感している。そして、秋商105年目の日々を自分なりの初〇〇を目指して、教員も生徒も歩みを止めずに刻んでいければと思う。

目 次

◎巻頭言 「変えない勇気 ～教育の不易～」	校 長 瀧 澤 徳 彦	1
I 指導主事訪問		
1 日程	教 務 部	3
2 研究授業の指導案と協議会		
① 数学：授業者(河上 貴子)	数 学 科	4
② 保健体育：授業者(藤原 淳一)	保健体育科	13
3 全体協議会	教 務 部	21
II 校内職員研修・授業実践研究		
1 年間実施報告	研 修 部	27
2 授業公開週間 実施報告	研 修 部	29
3 ICTを活用した授業実践例	研 修 部	45
4 数学的活動の各場面におけるICT活用について	数 学 科 山 崎 史 織	48
III 報告		
1 ビジネス実践		
① AKISHOP	商 業 科 大久保 薫	52
② キッズビジネスタウン	地歴・公民科 今 聡	55
③ エコロジカルビジネス	英 語 科 石 塚 禎 子	57
④ ユネスコスクール	教 頭 佐 藤 かおる	61
⑤ 商業科通信	商 業 科 柏 谷 亜紀子	70
2 センター研修		
A 講座		
中堅教諭等資質向上研修講座(高等学校)	保健体育科 藤 原 淳 一	74
C 講座		
発達段階に応じた情報モラル教育の理解と実践／高等学校における プログラミング演習		
	商 業 科 佐々木 一 秀	83
3 東北六県商業教育研究大会発表	商 業 科 佐々木 一 秀	86
IV 編集後記		90

令和5年度 指導主事学校訪問

1 期日 令和5年10月31日(火)

2 訪問指導主事

秋田市教育委員会学校教育課副参事指導主事(保健体育)	熊谷之男先生
秋田市教育委員会学校教育課主席主査指導主事(数学)	伊藤智泰先生
秋田県教育庁義務教育課学力向上・教育情報化推進チーム指導主事(数学)	煤賀卓也先生
秋田県教育庁保健体育課学校体育・部活動チーム指導主事(保健体育)	佐藤幸彦先生

3 研修テーマ

主体的・探究的な学びの実現に向けた秋商教育
～ ICT機器を活用した授業実践と授業改善～

4 日程

時 間	校時	日 程	備 考
9:10～ 9:55(45)	1		火曜1校時授業
10:05～ 10:50(45)	2	10:30頃指導主事来校 10:35～10:50学校経営の説明〈校長室〉	火曜2校時授業
11:00～ 11:50(50)	3	一般授業	火曜3校時授業
11:50～		指導主事〈校長室〉	※2A・C以外の生徒下校 ※部活動なし
12:05～ 12:55(50)	4 特定授業	科目名：数学・数学A 内 容：組合せ 授業者：河上 貴子 先生 生 徒：2年C組36名〈202教室〉 科目名：保健体育・保健 内 容：大気汚染と健康 授業者：藤原 淳一 先生 生 徒：2年A組42名〈203教室〉	※全教員がどちらかの授業を参観します。
12:55～ 13:40(45)		昼食	※教務部 協議会場設営
13:40～ 14:30(50)	研究協議会	○数学科〈205教室〉 協議題：ICTを効果的に活用した 授業実践と授業改善について ○保健体育科〈会議室〉 協議題：主体的・対話的で深い学びが 実現できる授業について	※参観した教科の研究協議会に参加します。 ※Google Jamboardを活用したKJ法による 協議 ※保健体育科(会議室)は職員室PCをご持 参ください。 ※会議室終了後、会議室を復元
14:40～ 15:20(40)	全体会	〈会議室〉 ①総評 ②校長より	

数学(数学A)学習指導案

日 時 令和5年10月31日(火) 4校時

対 象 2年C組 36名

教科書 新編 数学A(数研出版)

授業者 河 上 貴 子

1 単元名 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数(4 組合せ)

2 単元の目標

場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。

3 単元と生徒

(1) 単元観

身近にある具体的な事柄を扱うことができる単元である。様々な場合の数を正しく求めるためには、文章を正確に読み取り、論理的に考えることが求められる。事象を数学的に考察する能力を培うとともに、数学のよさを認識できるようにし、それらを活用する態度を育てることができる単元である。

(2) 生徒観

男子25名、女子11名の計36名。活発な生徒が多く、元気なクラスである。数学が得意で好きだという生徒は多くはないが、しばしばお互いに教え合う姿が見られる。自分の考えを述べ説明することができる生徒もいるが、考查の結果をみると知識・技能の設問の正答率が低く、基本的な学習事項の定着に課題がある生徒も多い。

(3) 指導観

本時は、グループ学習を中心に授業を行う。「教科書に書いてあるから」ではなく、「なぜ、どうしてそうなるのか」を自分の頭で考えて言葉で説明できるようになってほしい。また、そのような力を培うために、教え合う場面や発表する場面を設定している。

本時の目標では、最短経路の道順を求める際に、順列や組合せの考え方を活用して考察することができるように指導したい。

4 本校における「授業改善の課題」との関連性

主体的・探究的な学びの実現に向けた秋商教育
～ ICT機器を活用した授業実践と授業改善～

○グループの代表が課題の考え方を書画カメラで撮影し、スクリーンに投影しながら説明する。

○本時の振り返りをGoogle Formsの「振り返りシート」に入力する。

5 単元の指導計画

第1章 場合の数と確率	第1節 場合の数 (14時間)
1. 集合の要素の個数	2時間
2. 場合の数	4時間
3. 順列	4時間
4. 組合せ	4時間 (本時 14 / 14)

6 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p>組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。 また、組合せの公式を理解し、利用することができる。</p> <p>組分けの総数を求めることができる。</p> <p>同じものを含む順列の総数を求めることができる。</p>	<p>既習事項である順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。</p> <p>同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。</p>	<p>順列と組合せの違いに興味・関心をもつことができる。組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつことができる。</p>

7 本時の指導計画

(1) 本時のねらい

最短経路の道順を順列や組合せに帰着させて考えることができる。

様々な条件における最短経路の総数を順列や組合せの考え方をを用いて求めることができる。

(2) 学習過程

評価の観点【A知識・技能 B思考・判断・表現 C主体的に学習に取り組む態度】

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価の観点(方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を確認し、グループになる。 本時の課題である「AからBへの行き方の最短の道順は何通りあるか」のプリントを配付する。 		


展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで協力しながら、課題(別紙プリント)に取り組む。 書画カメラで撮影し、スクリーンに投影しながら説明する。 数え上げ以外の方法を話し合い、考える。 気付いたグループの代表が発表する。 教科書の練習問題(1)を解き、答え合わせをする。(時間があったら、(2)、(3)も解く。) 	<ul style="list-style-type: none"> 最初は、数え上げるように指示する。 数え上げるのではなく、順列や組合せの考えを用いることができるか、問いかける。 解法を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に取り組み、お互いに協力し合い、説明し合っている。 【C】観察、プリント 最短経路の道順を順列や組合せに帰着させて考えることができる。【A】【B】プリント 様々な条件における最短経路の総数を順列や組合せの考え方を用いて求めることができる。【B】練習問題
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りをGoogle Formsの「振り返りシート」に入力する。 		<ul style="list-style-type: none"> ねらいを達成することができたか。 【B】振り返りシート

<数学A>

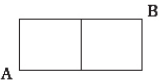
()組()番 名前()

<課題> AからBへの行き方の最短の道順は何通りあるか。


①




②



③



④



1 はじめに

指導主事紹介

2 授業者より～授業について、協議題について～

- 最短経路が順列であることに気が付かせることがねらいだったが、最後は生徒がC（コンビネーション）で考えることができていた。
- もう一つの解法も紹介できるとよかった。
- 書画カメラを生徒が使って発表するメリットは何か。
- 順列、組合せ、次は確率だがICT機器を活用するにはどのようにすればよいか。今後に向けて、「こういう活用法がいいのでは」という意見があったら教えていただきたい。

3 参観者ワークショップ

- 生徒が聞く姿勢ができていた。生徒に授業の楽しさが浸透している。
- 書画カメラが有効である。時短にもなる。黒板よりも生徒が見ている。生徒に抵抗感が少ない。生徒が考えを共有できる。
- 生徒が楽しくやっていた。慌てず、考える時間を与えることも必要。
- 振り返りに、小テストがあってもよかった。
- グループの数→生徒の自主性(好きな生徒同士)
- Google Jamboardも授業に活用できる可能性があるように感じた。
- 生徒同士で説明すると、教員が説明するよりよい点がある。
- ICTは意見共有に有効で、協働的に学び、知識が深まる。
- 生徒がコンビニに行くなど、身近な例を出すとよかった。
- 生徒に予備のプリントを与えて、青いペンで書かせるとよかった。

4 指導助言

＜秋田県教育庁義務教育課学力向上・教育情報化推進チーム指導主事 煤賀卓也先生＞

- 黒板と書画カメラの使い分けは、黒板は残るもの、書画カメラやパソコンなどは消えてしまうもので使い分けを。
- 生徒たちが自由に楽しそうに授業をしていた。振り返りもしっかり長い文章で書いていた。
- 生徒たちが話していたポイントとなる言葉「最短ってどういうこと」という発言をくみ取れば、生徒の混乱が少なくなりよりよかった。

- 問題発見、解決が学習である。数学では、抽象化と一般化が必要なので、 $\rightarrow\uparrow$ をうまく表すこと。
- 生徒の発言は生徒がよく聞くので、なぜC（コンビネーション）を使うのかを生徒に聞き、答えが出なければ、他の生徒に聞き、それでも答えがない時に教員が話すとよい。
- 「 $\rightarrow\rightarrow$ に区切りがある」、「意味があるよね」、と言っていた生徒もいる。（発言をうまく拾えるとよい）
- 評価方法の2つ目が本時のねらいと一致するが、ねらいは1時間に一つか二つでよい。数え上げではなく、順列、組合せを使えばよいということに生徒が気付けばよい。
- 「今日は教科書を使わないで」という指示をしてもよい。
- 中高のギャップをなくすためにICTを利用するのはよいが、ICTのみでは授業はよくならない。従来の授業力も必要。教員同士の協力が必要。

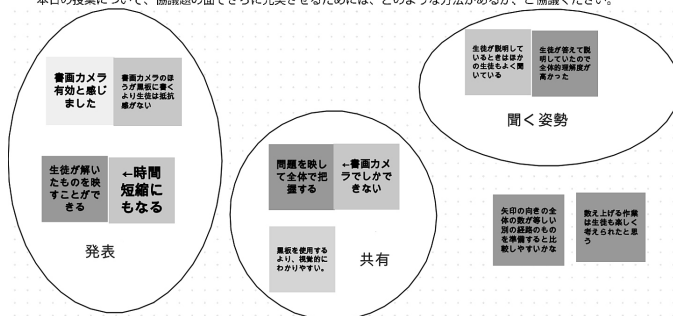
＜秋田市教育委員会学校教育課主席主査指導主事 伊藤智泰先生＞

- 生徒が活発に授業を受けていた。日々の積み重ねでできていることだと思う。
- 生徒の誤答を活かす、生徒の説明不足を補足するなどできればよりよい。
- 生徒がざわついた時に、「何？何？」と尋ねて、声を拾っていくことが必要。
- 書画カメラでは、なぜそうなったのかの過程が見られてよい。

数学科協議議題 ICTを効果的に活用した授業実践と授業改善について

本日の授業について、協議議題の面でさらに充実させるためには、どのような方法があるか、ご協議ください。

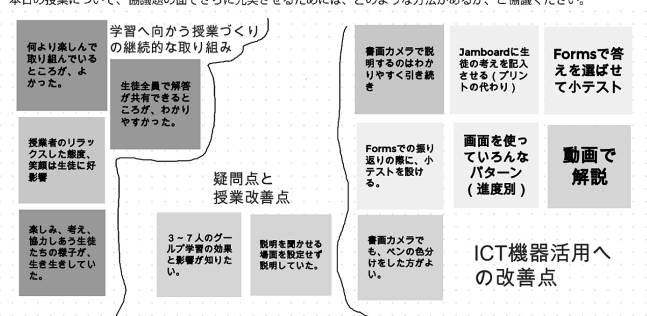
Group A



数学科協議議題 ICTを効果的に活用した授業実践と授業改善について

本日の授業について、協議議題の面でさらに充実させるためには、どのような方法があるか、ご協議ください。

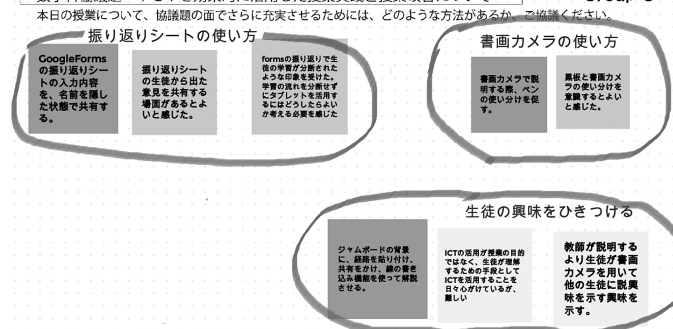
Group B



数学科協議議題 ICTを効果的に活用した授業実践と授業改善について

本日の授業について、協議議題の面でさらに充実させるためには、どのような方法があるか、ご協議ください。

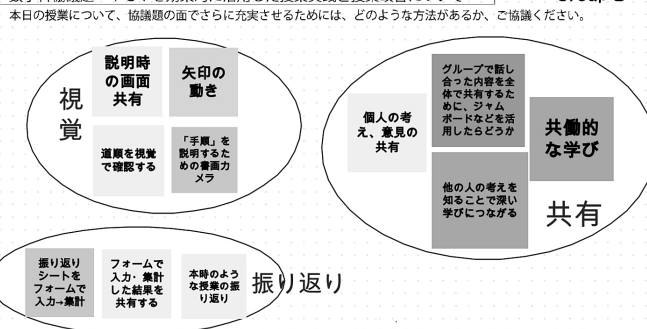
Group C



数学科協議議題 ICTを効果的に活用した授業実践と授業改善について

本日の授業について、協議議題の面でさらに充実させるためには、どのような方法があるか、ご協議ください。

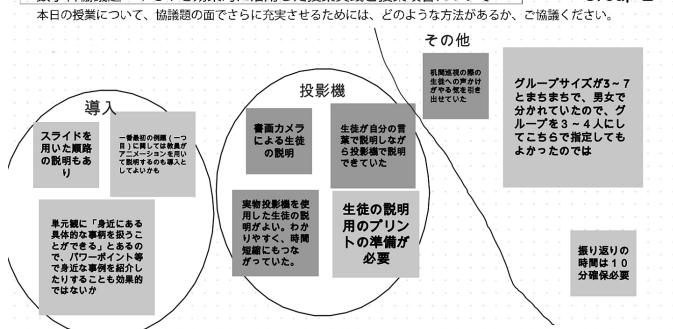
Group D



数学科協議議題 ICTを効果的に活用した授業実践と授業改善について

本日の授業について、協議議題の面でさらに充実させるためには、どのような方法があるか、ご協議ください。

Group E



授業参観シートより

☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

I <導入>参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- 明確な本時目標で何をするのか一目瞭然でした。
- 問いかけが生徒のやる気を引き出していた。
- 目標が「考える」となっていたが、生徒はグループで話し合い、自分の言葉で説明するなど個々が「考える」授業だったと思う。また、緩やかな流れで授業が進んでおり、生徒がゆとりを持って考えることができる流れだったと思う。
- グループの決め方ですが、生徒に決めさせるのではなく、先生が男女比や能力等によってバランス良くなるように指定した方がよいと思います。グループ7人というのは話し合いするには大きすぎますし、男女も混じっていた方がいいのではないのでしょうか。
- グループで積極的に意見を交わしながら課題に取り組むことができおり、グループ学習が効果的なケースだと感じました。
- タブレット・教科書等の準備がしっかりできている。
- 本時の課題に対し、興味関心をそそられていた。
- 書画カメラが非常に効果的に使用されていた。教科・科目によっては非常に有効だと感じました。
- グループでの活動のためか、授業を頑張ろうという雰囲気があったと思います。
- 生徒がグループで考え、答えを出していた。
- 生徒の雰囲気がとてもよかった。

II <展開>参観のポイント ③「探究」を意識した発問

④生徒の主体的な学習活動

- 生徒同士が教え合い、話し合い、いきいきと授業を受けていたのがとても印象的でした。
- グループ活動が効果的であった。
- 自分が授業をする際、つい発問をしすぎてしまい、生徒の考える時間を削ってしまいいつも反省してしまいましたが、河上先生の発問は多すぎず、生徒の探究を意識した発問だったと思う。
- 生徒がリラックスした雰囲気で自由にいろんな発想を伝え合っていた姿が印象的です。書画カメラもいい形で活用できていたと思います。
- 生徒が投影機を使用して発表することで、聞いている生徒も集中して話を聞いていた。黒板に書くよりも、わかりやすく時間短縮にもなってよいと思いました。
- ほとんどの生徒が楽しそうに、意欲的に取り組んでいた。早く解けた生徒が、わからない生徒に教えている光景が多く見られた。書画カメラを用いて正解した生徒に説明をさ

せることは、教員が説明するより関心を持って聞いてくれている気がした。

- 生徒が書画カメラを用いて説明すると、クラス全体が注目していて効果的な使用だと感じた。
- 生徒の主体的な取り組みが目立った。各グループで必ず発表などの条件にすると面白い解法が出てきそうに感じます。
- 生徒が説明しているときは他の生徒も真剣に聞いていました。
書画カメラの活用も生徒にとっては板書するより説明しやすかったと思います。
- 書画カメラは、なぜそうなったのかの過程が見られてよい。
- 生徒への声のかけ方が丁寧で優しかった。

Ⅲ ＜整理＞参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- 書画カメラで道順の動きを視覚でも理解することができて良かったです。
- どの生徒も主体的な態度で授業に参加していた。
- 生徒は和やかに授業に参加しており、河上先生の人柄が反映されていたと思います。
グループで話し合ったことが、他のグループと共有できるようなICTの活用ができれば、さらに生徒の学びが深まるのではないかと感じました。
- 振り返りは10分だと多い気がします。5分間で余裕をもってできる形の振り返りが良いのでは？（長い文章を入力するのは負担だと思います）
- 振り返りのGoogle Formsへの入力も習慣化されているのか、スムーズに行われていました。もし時間が許すならば、よい気付きを書いている生徒の感想を紹介する場面などあってもよいと感じました。
- まとめとして、タブレットを用いて振り返りシートを記入させているのはとてもよい。
毎時間行うのは大変だが、単元や考え方のまとめなどの区切りがつくときだけでも、後で振り返ることもできるのでテスト前の復習にも使えると思った。
- 振り返りをGoogle Formsを用いることで、教員側の集計の手間が省けてとてもいいと感じた。
- 振り返りはどのようなやり方がよいのかいつも疑問に思う。振り返りのためには本時の目標にかなりの具体性を持たせる必要があるような気がします。
- 生徒はタブレットにスムーズに振り返りを打ち込んでいました。振り返りが習慣になっているようです。
- 疑問を持った生徒の発言をうまく拾えるとよりよい。
- 書画カメラを使い、生徒が説明しやすいようにしていたのが素晴らしい。

☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- 数学と言えば「よくわからないけどとりあえず静かに先生の話聞く」だった私にとって、生徒達が自主的に取り組み会話しながら答えを求めていく授業がとても新鮮で強烈なインパクトがありました。数学はわかればきっと楽しいんですよね…！勉強になりました。ありがとうございました！
- 生徒による説明は、教員の説明よりも生徒の聞く態度がよかった。自分の授業でも取り入れたい。
- 数学の授業に対するイメージが変わりました。計算や公式にこだわることなく、生徒の思考の時間を充実させることが、今後の問題演習にいい影響を与えるのだと思いました。
- 生徒たちがいきいきと発言していて、活気のある授業だったと思います。
- 数え上げが可能なものから難しくなっていく問題を取り上げることで、生徒に主体的に効率よく求める方法はないのかと気付かせる流れがよいと感じました。自らの授業改善にも役立てたいと思います。ありがとうございました。
- 生徒が主体的に取り組んでいるいい雰囲気です。授業できていることが一番よかった。
- 河上先生の人柄の良さが垣間見られる授業だったと思います。生徒への声掛けが勉強に対して苦手意識を持つ生徒のモチベーションを上げるものだった所を参考にしたいと感じた。
- 生徒が各問題に取り組む時間を制限するのもありかと思いました。生徒の理解度を見るために、ある生徒の説明を他の生徒に説明させるやり方も面白いと感じました。
- 生徒がいきいきと授業を受けていました。生徒の主体的な学習活動を見ることができました。
- 生徒が聞く姿勢ができていた。生徒に授業の楽しさが浸透している。
- グループ活動が活発で、先生と生徒の間に信頼関係があることがわかり、素晴らしい。

保健体育(保健)学習指導案

日 時：令和5年10月31日(火) 4校時

クラス：2年A組(42名)

教科書：現代高等保健体育(大修館書店)

授業者：藤 原 淳 一

1 単元名

- (4) 健康を支える環境づくり(ア)環境と健康(イ)環境の汚染と健康
「大気汚染と健康」

2 単元の目標(⑦環境の汚染と健康)

- (1) 「知識及び技能」に関する目標
- 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解できるようにする。
- (2) 「思考力・判断力・表現力等」に関する目標
- 健康を支える環境づくりにおける事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができるようにする。
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標
- 自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うため、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

3 単元と生徒

(1) 単元観

本時は大気汚染についての内容であるが、地球温暖化やオゾン層の破壊など、汚染以外の大気に関わる様々な問題も含まれている。また、温暖化に伴う感染症や熱中症の増加なども取り扱う。我々が近年経験した感染症や猛暑などにも触れながら、生徒自身が自分に関係したこととして捉えるよう導いていきたい。

(2) 生徒観

男子16名、女子26名の計42名のクラスである。学習意欲は高く、日頃の授業には熱心に取り組むことができる。また、落ち着きがあり、記述する課題にも集中して取り組むことができる。しかし、テーマに沿って話し合うような課題では、自分の考えをなかなか表現できず、消極的な生徒も見られる。

(3) 指導観

ワークシートに空欄補充をしたり、自分の考えをまとめたりする活動のほか、グループ活動によって自分の解釈や考えを伝える場面を設け、他者の考えを共有したりすることで、本項目についての理解を深めつつ、生徒の思考力・判断力を高めるようにしたい。

4 本校における「授業改善の課題」との関連性について

「主体的・探求的な学びの実現に向けた秋商教育～ICT機器を活用した授業実践と授業改善～」

- ワークシートや課題の配布をGoogle Classroomで行う。
- 説明スライドをスクリーンに投影する。

5 指導と評価の計画(㊦環境の汚染と健康)

	主な学習活動	知	思	態	評価方法
1 大気汚染と健康(本時)	1 大気汚染について、その原因と健康影響について調べ、理解する。 2 大気汚染以外の大気に関わる他の健康課題について知る。 3 環境と健康にはどのような課題があるのか整理し、発表する。		○		ワークシート
2 水質汚濁及び土壌汚染と健康	1 前時に学習した大気汚染と健康について振り返る。 2 水質汚濁と健康影響について調べる。 3 土壌汚染と健康影響について調べる。 4 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の関係性についてワークシートにまとめ、発表する。	○		○	観察ワークシート

6 単元の評価規準(㊦環境の汚染と健康)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること。また、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解している。	・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

7 本時の計画

(1) 本時の目標

- 大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。
- 大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。

(2) 学習過程

	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価の観点(方法)
導入5分	1 本時の内容・目標の確認	○本時の学習内容を提示し、目標や活動内容について理解できるようにする。	

展開 40分	<p>発問1：今自分が気になっている、大気に関わる問題について理由も含めてあげてみよう。</p>		<p>〈思考・判断・表現〉課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートに記述したりして、筋道を立てて説明している。(観察・ワークシート)</p>
	2 自分が気になる大気の問題について、自分の考えをワークシートにまとめ、発表する。	<p>○なぜ問題があると考えたか、具体的に記述するよう指示する。</p> <p>○何名かに発表してもらう。理由も含めて簡潔に話すよう指示する。</p>	
	3 大気汚染の発生源・原因物質について、説明を聞きながらワークシートにまとめる。	○必要に応じて教科書も参照するよう指示する。また、黄砂の問題について、コラムも参照しながら紹介する。	
	4 大気汚染の健康影響について、説明を聞きながらワークシートにまとめる。	○必要に応じて教科書も参照するよう指示する。	
	5 大気に関わる地球規模の問題について、説明を聞きながらワークシートにまとめる。	○本年の熱中症や食糧難の状況も踏まえて説明する。	
まとめ 5分	<p>発問2：大気に関わる、さまざまな地球規模の問題について、対策を考えてみよう。</p>		
	6 グループを作り、大気に関わる問題を1つ選び、話し合いながら対策を考える。	○選択した理由を含め具体的に記述すること、発表できるようまとめることを指示する。	
	8 本時の内容を振り返り、学習したことをこれからの生活にどのように生かしていくかをワークシートにまとめる。	○自分に起こり得ることとして考えながらまとめるよう助言する。	

令和5年度 指導主事学校訪問 研究協議会(保健体育科)

記録 商業科 山 崎 翼

1 はじめに

指導主事紹介

2 授業者より～授業について、協議題について～

- 授業のねらい、生徒に思考力と判断力を養う。
- トラブルがあり予定通りにできなかった。
- 大気汚染についてグループでの活動で予定通りにできた。
- ICTの活用をして授業を実践した。
- 手法や進め方については改善点が多いと感じている。
- 授業としては知識量が少ないが、学んだ知識を活用して普段の生活に活かしてもらいたい。

3 参観者ワークショップ

〈行い方〉

- 参観した教員で授業のさらなる改善案についての協議
- 参観シートや授業者の反省等を踏まえ、グループごとに改善案の検討
- KJ法を使って意見をまとめ、Google Jamboardに表し、最後に1グループずつ発表
～各グループで協議～

〈各グループからの発表〉※抜粋

- 他人の意見を聞いたり見たりするためGoogle Jamboardの活用が必要。
- グループ内で討論するので同じ議題での話し合いが必要。
- 分からないデータなどは、生徒たちに調べさせる時間があつた方がよい。
- 課題を絞り込む。
- メリハリをつけ、ICTを使う場面や生徒たちが考える場面を分ける。
- 展開の構成について、各自で調べて考える時間が主体的学びになる。
- グループ内の時間を設定する。
- 他グループからの意見を聞く時間の設定をする。
- トラブルもあつたが、最後にはまとめられた部分はしっかりとした準備があつた。
- グループでの意見交換もあればよい。また、生徒がお互いで評価することで深い学びにもなる。

4 指導助言

＜秋田県教育庁保健体育課学校体育・部活動チーム指導主事 佐藤幸彦先生＞

- 先生の流れの説明から生徒たちは見通しを持って取り組める授業がされていた。
- グループの中から何について話すのか、疑問の声があった。
- 保健の授業を実生活に使うため、先生たちがメッセージ性のある言葉等を生徒に提示することで効率が上がる。
- もう少し彼らに当事者意識を考えさせることが必要である。
- 秋田ならではの公害など身近に大気汚染を感じられると理解しやすいと思う。
- ICTでしかできないことを考える。今回のワークシートに関してはパソコンで表示する理由があまり感じられなかった。
- 秋田商業の強みを利用してICTを発達させてほしい。

＜秋田市教育委員会学校教育課副参事指導主事 熊谷之男先生＞

- 掲示のところでキーワードが生徒たちの見えるところにあればもっとよい。
- 最初の10分という時間に生徒たちの集中が切れなかったことは普段のしつけがしっかりしている。
- グループで話し合って自分たちの意見が認められた時に、生徒たちは喜びを感じると思うのでそういう場面を必要とする。
- ICTの利用はトラブルもあるが、それも含めて積極的に利用していくことが重要である。
- 生徒たちが発表した後の追質問があればもっと生徒たちも考えることができる。

☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

I <導入>参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- 本時のゴールを共有し、生徒もそこに向かって取り組んでいた。
- 本時の目標や流れが明示され、生徒は自分が何をすべきかを把握して授業に参加できている。
- パワーポイントに投影し、説明した後に黒板に貼った状態で残しておくことで生徒の見通しが立ちやすい環境であったと感じます。
- スライドやタブレットを使う必要があるかどうかは、内容に応じて検討が必要と感じました。
- 明確に掲示されていて、生徒が見通しを持って授業に取り組んでいる。
- 適切でした。機材トラブルにも柔軟に対応していて素晴らしかったです。

II <展開>参観のポイント ③「探究」を意識した発問

④生徒の主体的な学習活動

- グループワークでは意欲的な意見交換がされていた。
- 時間の都合もあり、すべてのグループが意見を発表することはできなかったが、こちらの想定を超えた意見発表などがあり、それを導いた授業者の発問がすばらしかった。
- 地球環境の問題3つについての対策を考える発問に対して生徒は自ら興味のある問題について考えることができ、学習の個別化を図ることができたのではないかと感じます。私の授業でも取り入れたい発問内容でした。
- 生徒が個々に課題を選択したため、協働して考察を深める時間があまりとれなかったと感じました。
- 生徒が主体的に考えることにつながっていた。
- タブレットで入力させていたが、聞くべき時は聞かせて作業するときには作業した方がよいのでは、と思いました。

III <整理>参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- 実生活にどうつなげるかの意識付けを大事にしているように感じた。
- 全グループの意見や、それに対する評価もICTを活用して実施すればさらに深い学びにつながる可能性を感じた。
- 着地点が明確で生徒が目標に対して振り返りやすい内容でした。
- 時間に限りがあったため、振り返りまで至ることができなかったことは残念でした。
- 実生活につながるようアドバイスされていたのが参考になった。
- 生徒が発表し、その発表が素晴らしくて生徒も内容をしっかり聞いていて素晴らしかった。

☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- 導入部分がパソコンのトラブルでできなかったことが残念であった。
- 授業者が丁寧に授業準備をしているのがよくわかった。タブレットの不具合がなければ、さらにすばらしい授業になったと思う。お疲れ様でした。ありがとうございました。
- 授業の初め10分程度Googleのトラブルがありましたが、その後の本時の目標に対しての授業展開が素晴らしくとても参考になる授業でした。生徒の反応も良く普段の授業での取り組みが伝わるとてもいい授業だったと思います。参考にさせていただきます。ありがとうございました。
- ICTの活用については、教科や授業内容の特質に応じ、有効性を検討して用いるべきだと再認識しました。
- 「自分の生活に生かせるのが保健」という言葉はなるほどな、と思いました。

令和5年度 指導主事学校訪問 全体協議会

日時：令和5年10月31日(火)

場所：会議室

司会：木村副校長

記録：佐藤 大

1 指導主事紹介

秋田市教育委員会学校教育課副参事指導主事(保健体育)	熊谷之男先生
秋田市教育委員会学校教育課主席主査指導主事(数学)	伊藤智泰先生
秋田県教育庁義務教育課学力向上・教育情報化推進チーム指導主事(数学)	煤賀卓也先生
秋田県教育庁保健体育課学校体育・部活動チーム指導主事(保健体育)	佐藤幸彦先生

2 校長より

今年度の研修テーマを「主体的・探究的な学びの実現に向けた秋商教育～ICT機器を活用した授業実践と授業改善～」として、6月に第一回目、現在が第二回目の授業公開週間を行っている。各教科においてアピール授業を行い、互いの授業を参観し合うことで指導力向上と授業改善に努めている。これは全教科で実施し、全職員が2教科以上かつ2時間以上参観することとし、参観シートにGoogle Formsを利用して行っている。これにより授業者が参観者から授業内容のフィードバックを行い、共通理解に役立っている。そして今年度は校内研修を学校全体で取り組むことを大前提として具体的な取組を掲げて行っている。

昨年度から全生徒へタブレット端末の提供を行っており、研修部が中心となってICT推進委員会と連携してGoogleドライブの使い方、ICT実践例、Google Formsの作成方法、Google Jamboardの使い方など、実践的な研修を行っている。また、Google Classroom内に「研修部の部屋」を準備し、大切な研修の案内や内容についていつでも確認できるようにしている。本日の研究協議会でもGoogle Jamboardを活用してKJ法での協議を行うなど、授業だけではなく会議や研修においても欠かせないICT機器の活用について学校全体で進めている。本日3校時の校内授業参観、4校時の数学科と保健体育科の研究授業を通して授業や本校の課題等についてご指導いただきたい。今回ご指導していただいたことを次の課題として取り組み、さらなる授業改善を図っていききたい。我々は学校現場にあり、外部の動向や教育委員会の情報が入りづらいところもあり、市教育委員会、県教育委員会の最新の動向や学校として留意しなければならない部分があれば教えていただきたい。

3 総評

(1) 秋田県教育庁義務教育課学力向上・教育情報化推進チーム指導主事(数学)

煤 賀 卓 也 先生

設置者ではないですが県として情報提供として、生徒指導・授業・カリキュラムマネジメントの三点についてお話ししたい。

まず生徒指導について、県教育委員会では「こころ・姿・振る舞い・さわやか高校生運動」を推進している。自身が八橋から県庁方面に通勤している際、秋商生とすれ違う。元気で整容の良い生徒の姿を見ると落ち着いて安心して学校に通えており、学校環境の整備に関してもきちんと行われている様子が窺える。また、生徒指導については昨年12年ぶりに生徒指導提要が改訂された。改訂における重要な点については「積極的な生徒指導の推進」であり、これは古くて新しい言葉である。自身が採用試験の面接の際に聞かれるくらい古くからあった言葉である。これは目の前の問題に対応するだけではなく、日々子どもたちへの挨拶、声かけ、励まし、褒める、話す、授業や行事の際に個・集団へ働きかけることがこれまで以上に大切である。対応が難しい子どもが増えてきているので、学校全体で取り組んでももらいたい。さらに、「チーム学校による生徒指導」体制の構築をしてもらいたい。困ったことがあれば、HR担任一人が抱え込まず、学年部や管理職に相談し、必要であれば関係機関との連携を行うなど、組織的な対応が必要となってきている。時代の変化に伴い、生徒指導の問題が複雑化しており、ICTの発展に伴ってSNSでのいじめが増えてきているが、先生方からは日頃から丁寧な指導をしてくれているようだ。改めて生徒指導のあり方を確認し、生徒の自己実現に向けての支援をお願いしたい。

二つ目の授業についてということで、学習指導要領が変わって1・2年生は新学習指導要領のもと学習に取り組んでいるが、「主体的・対話的で深い学び」という言葉が加えられている。今日の授業参観したところ、子どもたち同士がコミュニケーションを取りながら授業をしながらも、先生の話の聞くときには顔をあげて聞くなど、メリハリのある授業であった。先生方の丁寧な対応が見受けられる。生徒の力をさらに伸ばしていくために、授業改善に向けて三点お話ししていく。一点目は、授業のゴールの設定についてである。毎時間本時の目標を書いていると思うが、授業のゴールとして目指す資質能力を身につけさせることができたかという観点で本時の目標を書いていく必要があるとともに、生徒と教員がゴールを共有し、生徒がどこに向かえばいいかを理解していなければならない。その上で、ゴールに向かって焦点化することで先生方が様々な手立てを工夫できることにつながる。二つ目は、資質能力の育成に向けた手立てとなる学習活動の工夫である。先述したゴール達成のために、生徒の実態やこれまでに身につけた学力、本校の特性、クラスの雰囲気等を考慮しながら効果的な手立てを考えなければならない。

三点目はICTの活用についてである。秋田商業高校はICTを非常に良く活用しており、学校をあげて取り組んでいるようだ。生徒も振り返りを素早く端末上のGoogle Classroomでスムーズ

に入力できており、商業高校という特性もあるかと思うが、普段から使用していることが非常に大きいと思われる。求められる資質能力である知識および技能、思考力・判断力等を育成するために効果的な利用については今後も続けて検討してほしい。

先ほどの協議会でもお話ししたが、ICTを活用した指導力も重要であるが、いわゆる従来型の授業力も重要である。ICTだけでは力が伸ばせないことが最近分かってきている。商業高校ということでICTに長けている先生方と、力のあるベテランの先生の授業力をそこに落とし込み、お互いにアイデアを出し合って学校全体で活用方法を検討していただきたい。

最後にカリキュラムマネジメントの一層の充実について、一つ目として整理・検証・改善である。秋田商業は県内唯一の商業高校ということで社会に貢献する人材を多く輩出してきたと思われる。その場合に、秋田商業の強みは何なのかを考えたい。特色あるカリキュラムを活かす、総合的な探究の時間のビジネス実践(AKISHOP、キッズビジネスタウン)等、地域と連携するという強みがある。それを自覚して学校のカリキュラムをどう考え生徒をどう育てていくかを考えていただきたい。二つ目は改めて学校として育成する資質・能力を検討してほしい。秋田商業はグラデュエーションポリシーとして三点あげられているが、それらを生徒も先生も共有し、授業の中でも触れて「このような力を身につけさせたい」ということをHR活動、特別活動でも共有していくことが大切である。授業が一番大事であるが、特別活動や学校行事等で意欲を持って取り組ませることも必要である。組織的、継続的な検証・改善をお願いしたい。

最後に、秋田商業には地域としても県としても期待している。大変なこともあるかと思うが、その期待に応えられるようにお願いしたい。本日はありがとうございました。

(2) 秋田市教育委員会学校教育課主席主査指導主事(数学)

伊 藤 智 泰 先生

私から三点についてお話ししたい。

一点目は秋田市学校教育の基本方針と貴校の学校経営について、二点目は貴校の教育活動について、三点目は秋田市教育委員会からのお願いである。

一点目について、本市では昨年3月に秋田市学校教育ビジョンを改訂した。自立と共生を理念として検証している。また、秋田市教育の目指すべき姿として、秋田の未来をともに創りともに生きる「自立と共生」の人づくりとし、学校教育においては志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実を目標としている。目標の具現化にあたっては、豊かな人間性の育成、確かな学力の育成をはじめとする6つの重点項目を設定し、危機管理上の留意点と併せてすべての学校に共通して理解していただくこととしている。時間があるときに目を通していただきたい。2校時目には貴校の学校経営について資料を交えて丁寧に説明していただいた。校長先生からも、「本校の目指す姿として、県内商業教育の中心校として地域産業をはじめ、経済社会の健全で持続的な発展を担う創造性豊かな人材の育成と、秋田の魅力を伝え、秋田を支える人材の育成は本校の使命として、本校が特に力を入れている」とのお話であった。また、

そのために具体的目標として社会的・職業的な自立が必要な資質・能力、態度を身につけさせるキャリア教育を推進し、自己の将来を見通し、学んだことを活かして社会に貢献しようという志を持たせるために具体的な取り組みとして教育活動のあらゆる場面で生徒の主体性や協働性を育成することや文武両道を掲げて、部活動で人間形成をはかる場として大切にしていることがわかった。特に印象に残ったことが、学校経営についての基本的な考え方について、生徒のための学校でありたいということだ。そのために授業、学習、その次に部活動、その前に基本的な生活習慣の確立という順番を大切にしているとのことで、生徒ファーストで教育活動が行われているとともに校長先生の熱い思いが伝わってきた。

二点目は貴校の教育活動について、校訓である「感謝・勤勉・鍛錬」を具現化させながら豊かな人間性、創造性、健やかな体、高い志と使命感を育むという前進的な教育を展開されているようだ。貴校独自のキャリア教育としてAKISHOP、キッズビジネスタウン、全国レベルの部活動など、価値のある教育活動が展開されている。今月の14日に行われたAKISHOPに足を運んだところ、沢山の企業とタイアップした商品やイベント、SDGsクイズなど工夫を凝らした取り組みに心から楽しませていただいた。何より印象的だったのが、一人一人のお客様に笑顔で接客する生徒の生き生きとした輝く姿、自ら考えて主体的に行動する姿である。このような実感を伴った学びは、生徒達が自分の未来を形作るために大切な機会であるとともに生徒達が主体的に活動できるこの環境を先生方がつくり、陰日向となってサポートしているからと思われる。新型コロナウイルスの5類移行に伴い、従来の姿を取り戻しつつあると思う。小中学校や地域のつながりを大切にしたい貴校ならではの価値ある活動がこれからも充実・発展するよう願っている。

学習指導について主体的・探究的な学びの実現に向けた教育、ICT機器を活用した授業実践が行われている。ICTの活用については市立小中学校でも一人一台端末の配布が行われて3年目、「まず使ってみる」から「ねらいに迫る効果的な活用」へと徐々にICTに対する捉え方も変化している。児童生徒たちのタイピングや情報収集能力等のスキルも成長している。本校でも参観を通して同様のことを感じた。

本日の授業について、どのクラスでも授業の目標や流れを可視化し、活動の見通しを立てていた。生徒が課題意識を持ち主体的に学ぶ意欲を引き出す先生の姿が見られ、生徒が生き生きと授業に取り組んでいた。発問や学習形態の工夫により、子どもたちが表情豊かに意欲的に学習に向かう姿や自分の考えを表現し、対話を通して学びを深めていく様子も見られた。能動的な学びという言葉があるが、グループ活動が能動的な学びではなく、ねらいを持ったグループ活動や子どもたちが友達と話したい、このことを共有したいという思いを感じて、意図のある学習形態を考えるということが重要である。活動あって学びなしということにならないよう、子ども達の思いや願いを大事にしていきたい。また、多くの授業で目標達成のためにねらいをもって効果的にICT機器を活用しており、貴校の研修テーマや学習指導要領に基づく授業が

多く見られた。生徒達が学習に真剣に向かう姿から、秋商スタンダードが確実に定着し、学びを支える原動力となっていることを実感した授業であった。

最後に教育委員会から2点お願いしたい。1点目は生徒の安全について、交通事故防止については以前より指導してもらっているが、本市では交通事故が50件という昨年よりかなり多くの交通事故が発生している。うち31件は自転車の事故であり、その多くは前方不注視や一時不停止など安全確認を怠ったことや交差点を曲がる際に膨らんでしまうなど自転車の操作ミスが原因で発生している。改めて、道路を横断する際の一時停止や左右確認等に加え、自転車運転時のルールについての指導を引き続きお願いしたい。なお、自転車の事故は頭部へのダメージが重大な怪我につながることから、ヘルメット着用努力義務化についてお話しいたきたい。また、不審者事案も既に41件発生している。中には身体接触など重大な事案も発生しており、大変憂慮している。もしそのような事案が発生してしまった場合には、事案発生後の生徒に対して親身になった対応と一斉メール配信等で情報提供等を速やかに行い、二次被害の防止に努めるようお願いしたい。加えて、休日等に発生した交通事故や不審者事案に関しては学校への連絡が翌日以降になり、その後の対応が遅れるケースが少なくない。事案発生時には学校にも速やかに連絡をするよう、生徒に周知していただきたい。2点目は中学校部活動の地域移行についてである。国では少子化が進む中、将来生徒たちが文化、スポーツ、芸術などに継続して親しむことができる機会を確保するため、令和5年度からの3年間を改革推進期間とし、部活動の地域移行を進めることとしている。本市も例外ではなく、統計として予想できる令和17年の中学生の人数は約4,200人と現在より2,400人減少し、率にすると3割以上減少すると推定されている。そうした状況の中で中学校の部活動を今後行うことが非常に困難であり、本市では来年度から休日の部活動を移行可能な種目から地域へ移行することとして協議を進めているところである。これまでであった形を変えることになるため、今後実施にあたっては解決しなければならない課題があるが、先生方にはこのような状況を理解いただくようお願いする。

結びに、Withコロナの時代からAfterコロナの時代と言われる昨今であるが、今後も引き続き感染症対策に加え、今年の夏は大変な猛暑であったこともあり、熱中症への対策も、生徒達が安心して安全に活動に取り組む工夫があったと思われる。生徒と先生方がともに学ぶ姿勢が見られた。これからも健康には十分に留意して、秋田を、日本の未来を担っていく生徒たちが、多様化・複雑化する社会を力強く歩んでいけるよう力添えいただきたい。

4. 校長より

本日は指導主事の先生方、授業だけではなく生徒指導その他多岐にわたるご指導ありがとうございました。

授業については継続的な改善が必要であり、そのためにこのような研修会が非常に重要だと思っている。我々教員は生徒のために最大限努力する必要がある、その基本として授業がある

と思っている。今後も全職員で確認していきたい。本日出てきた課題に対しては組織で対応し、よりよい授業、それを通じて生徒指導にもつながるよう努力していきたい。今後とも指導ご鞭撻宜しくお願いします。

なお、熊谷先生は本校OBであり、サッカー部であった。全国大会で大活躍した方で、非常に感慨深い、教師冥利につきる思いである。熊谷先生には本校OBとしても、指導主事としても今後ともサポートしていただきたい。

最後に、お越しいただいた先生方につきまして、ご健康に留意され、益々のご発展を祈念してお礼の言葉としたい。ありがとうございました。

年 間 実 施 報 告

研修部

1 今年度の目標

- (1) 教職員の資質向上と生徒理解・指導に役立つ校内研修を実施する。
- (2) 指導力の向上と授業改善及び生徒理解のため、授業公開週間を実施する。
- (3) 校外研修の情報を提供し、参加を奨励する。

2 今年度の重点的取り組み事項

◎校内研修は学校全体で取り組むことを前提とする。

- (1) 校内研修の円滑な実施
時勢に合った研修を提案し、課題について教員間の共通理解を図る。
- (2) 授業公開週間の推進
研修テーマを設定し、アピール授業実施により活性化を図るとともに、参観者の掌握を徹底する。
- (3) 校外研修の奨励と研修者の掌握
適切な時期に適切な方法で案内し、研修参加者を一覧にして掌握する。

3 今年度の研修テーマ

主体的・探究的な学びの実現に向けた秋商教育～ICT機器を活用した授業実践と授業改善～

4 今年度の実施研修内容

☆：ICT推進委員会と連携

時期	研修内容等	対象	研修形態
4/4	① 令和5年度研修講座について紹介 ② 新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価について	全職員	職員会議
4/19	Google Classroom「研修部の部屋」開設	全職員	研修等の情報提供
4/27	① 令和5年度研修テーマについて ② 研修部ロッカーの活用について	全教員	職員会議
5/24	① 令和5年度授業公開週間実施要項 ② 研修履歴支援システムについて	全職員	職員会議
6/12～6/23	授業公開週間(前期)	全教員	アピール授業・授業参観
6/27	授業アンケート実施要項提示	全教員	職員会議
7/25☆	① データのPDF化 ② Google共有ドライブ_共有アイテムの利用方法	全職員	職員会議後職員研修
9/25	① 授業アンケート1回目結果報告 ② 授業公開週間(後期)について	全職員	職員会議
10/17～11/2	授業公開週間(後期)	全職員	アピール授業・授業参観
12/22、12/25 1/15☆	ICT機器おさらい会	希望者	実践研修
2/20	ICT機器を使った授業実践	希望者	職員会議
2/20	授業アンケート2回目実施報告	全職員	職員会議
2/20	令和5年度研修部アンケート報告 中堅教諭等資質向上研修報告	全職員	職員会議
随時	『研修部の本棚』への書籍の追加	全職員	書籍の設置・貸し出し
～年度末	年間の研修記録を集録し、研修集録にまとめる	全職員	配付

今年度の研修会風景より



- 1 趣 旨 お互いに授業を参観し合うことにより、指導力向上と授業改善を図るとともに、生徒理解に役立てる。
- 2 テーマ 「主体的・探究的な学びの実現に向けた秋商教育
～ ICT機器を活用した授業実践と授業改善～」

【授業するに当たっての重点的取り組み事項】

- ①【本時の目標】を提示する。
- ②【授業の流れ】を明示する。
- ③生徒の「なぜ」を引き出す「発問」を工夫する。
- ④生徒が主体的・探究的に取り組む学習活動の場面や時間を設定する。
(グループ活動・教え合い・調べ学習・考察・発表など)
※ICT機器の活用
- ⑤【本時の目標】に対する「振り返り」をする。

- 3 期 間 (前期) 6月12日(月) ～ 6月23日(金)
(後期) 10月17日(火) ～ 11月2日(木)

4 実施方法

各教科

- 期間中、各教科代表者1名以上が、アピール授業を行う。なお、商業科に関しては分野ごとの代表者1名以上がアピール授業を行う。
※家庭科・芸術科については、毎年の実施は求めないものとする。
- アピール授業前に最低1回は科会を開き、科全体で授業研究し、組織としてその授業に関わる。

全職員

- 前期と後期を合計し、自教科1時間以上＋他教科1時間以上＝計2時間以上(家庭科・芸術科は他教科2時間以上)の授業を参観する。
※できるだけアピール授業の参観とすること。
- 参観はフリー参観形式とする。1時間内に複数の授業を参観してもよいが、授業時間の半分(25分)は参観する。
※参観する際のポイントは参観シートに記載しています。
- 参観時には『参観シート』(時間割変更黒板の下に準備しておきます)を1授業について1枚持参し、Google Formsに参観後1週間以内に入力する。
※Google Formsの回答状況で参観者を掌握し、研修部でデータを取りまとめ、授業者へ渡します。

授業公開週間 アピール授業

国語科学習指導案

糸 田 由香子

- 1 実施日時・場所： 6月23日(金) 3校時 1D教室
- 2 実 施 科 目： 言語文化
- 3 学 年 ・ ク ラ ス： 1D
- 4 単 元 名： 読書は生きる力 小説「ゴール」(三崎亜記)
- 5 本時のねらい： 小規模の交流を手立てに小説の内容を読み取る。
- 6 学 習 の 流 れ

学習活動(50分)	指導上の工夫・留意点	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらいを確認する。 ・ 本時の流れを確認する。 ・ グループに分かれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小説の内容を読み取るのが苦手だと感じる場合は、小規模の交流を手立てにすることが有効だと意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ねらいと流れを理解し、小規模の交流に取り組む準備ができているか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力しながら背景となる状況と登場人物の言動を読み取る。 ・ 読み取った内容をグループの代表が黒板に書き込み、各自がワークシートに書き写す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時で読み取った内容が次時(主人公の心情の把握)には重要となることを意識させる。 ・ 小説の内容を読み取る作業が順調に進んでいるかどうか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力して読み取り作業を順調に進めているか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時を振り返り、小規模の交流について各自が感じる良かった点と工夫が必要な点の両方をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模の交流が小説の内容の読み取りの手立てとして有効だったかどうか振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模の交流が手立てとして有効かどうか意識できたか。



☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

I <導入>参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- ①プロジェクターを使ってはっきりと示していた。
- ②流れについては指導案のとおりであった。ただ、机の移動や配付物については事前に行っておけば、時間の短縮になると思う。Classroomを活用して、生徒の意見を明示させてもいい。
- 「本時の目標」「本時の流れ」を示した文に空欄を設けて語句を入れさせる学習活動によって、生徒がそれらを明確に意識することができたと思う。
- 「小規模の交流を手立てにして小説の内容を読み取る」という目標は達成できていた。
- グループワークの流れや作業内容についてもスライドを作成していればより効率よく明確な指示が出せたと思います。
- スクリーンに映していたことはとてもわかりやすかった。授業の流れが残っていればもっと良く、さらに終わったところにチェックを入れるなどすると具体的に次に何を学習するのかがわかりやすいと思います。
- 糸田先生が目標と本時の流れを丁寧に時間をかけて確認していたため、生徒も本時の着地点をしっかりと理解していたのではないかと思います。
- スクリーンに明確に表示されていてとてもよかったと思います。

II <展開>参観のポイント ③「探究」を意識した発問

④生徒の主体的な学習活動

- ③授業者の問いの意図を理解できていない生徒が複数名いた。(何をすればいいの？みたいな。)この作品は初見であったが、本文後半の部分を中心に生徒一人ひとりに考えさせ、自由な発想で意見を述べさせてもおもしろかったのではないかな。(もちろん、本文を正しく読解していることが前提で。)
- ④概ね各自積極的に話し合っている様子が見られた。あくまでも私個人の意見だが、③の意見をクラスで評価し合う場面があるとさらに盛り上がるのではないかな、と感じた。
- グループの構成員が少数であることによって、生徒が「お客さま」にならない状況が作り出せていたと思う。
- グループワークの中に、役割分担、黒板・カードへの記入などの過程があったが、指示をよく聞き、協力的に学習できていた。
- カードに書いた意見の発表について、評価や事実誤認の訂正はしないのでしょうか。(「ゴール探しの仲間」など明らかな誤読もありました。)
- いつもと違い、グループで役割を与えて行くと生徒が主体的になると思いました。大変参考になりました。

- 生徒が苦手としている読み取りを題材としているが、複数人で読み取りを行うことで苦手な人に得意な人が教える光景が見られたり、一緒に考えたりと探究活動が活発な班が多かったと感じます。
- 小さなステップを踏んで、理解を深める手順がとても丁寧だと思いました。

Ⅲ ＜整理＞参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- 生徒は落ち着いた雰囲気の中で授業に臨んでいた。これは授業者の先生の指導が行き届いている成果だと思う。「ICT活用」については、本時の目標の提示にとどまらず、失敗を恐れずにトライしてみてもいいのではないかと。リアルタイムで考えていることをClassroomを通して投稿させ、お互いにどんなことを考えているのかを可視化することで、多様な考え方や価値観を学べる良い機会になる。
- 学習内容ではなく学習活動についての振り返り、というところがユニークだった。もう少し工夫すれば生徒のメタ認知を高める振り返りにすることができると思う。
- 生徒同士の交流が登場人物を様々な視点で読み取ることができることにつながっていたと思います。
- 本時の目標・流れの空欄補充プリント(B5)はどのタイミングで使う予定だったのでしょうか。
- 生徒もいきいきとしており、中学校の研究授業のようで目的に合った授業だと思いました。
- 改めて本時に行った内容について丁寧に振り返りを行い、さらに次の時間に行う内容にどのようにつなげるかまでを示していたので、生徒たちも学習の見通しを立てやすくなったのではないかと感じます。
- 細かいところまで考えさせる段階の工夫がしてあって、素晴らしいと思いました。

☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- 研究授業を担当する先生は、事前の準備から当日の授業まで心身共に本当に大変です。お疲れ様でした。ありがとうございました。
- 少人数のグループでも、机を向き合わせて意見交換をするほうがコミュニケーションが深まるのではないかと感じた(授業者のねらいは他にあったのかもしれませんが)。
- この授業の中心は、学習シートに該当箇所を抜き書きしてそれを確認することではなく、その後の「私は男性の言動をどのように捉えているか?」という問いかけに答えることにあったのではないかと。文章を読み込んで各自がどのように解釈したかを、根拠を示しながら出し合う学習活動をメインにして授業を構成すると、もっと深い思考が生まれたのではないかと。
- グループ学習の途中で「書記役が他のグループの様子を見に行く」という活動が興味深かつ

た。それを書き留めて自分のグループに持ち帰って報告することを義務づければ、もっと面白くなるかもしれないと感じた。

- 火曜日6校時、1Eの言語文化に設定していただけたら国語科全員が無理なく参観できたと思います。
- 自分は通常「グループワーク」という語を用いていますが、「小規模の交流」は国語の用語でしょうか？
- グループワークにおいては、グループを意識させるためにも、作業に集中させるためにも、机の向きは変えさせるべきだと感じました。
- 生徒への質問では、質問したら少し待って本当にないか確認する時間が必要だと思いました。お疲れ様でした。
- 目標や授業の流れ、説明、確認などが本当に丁寧で参考になりました。
- PowerPointに本時の目標と流れを常に投影している状態をつくる方法も今後の私の授業に生かせる部分であると感じました。
- 参観させていただきありがとうございました。
- 生徒への声かけが自然で、まねしたいところが沢山ありました。本当にありがとうございました。

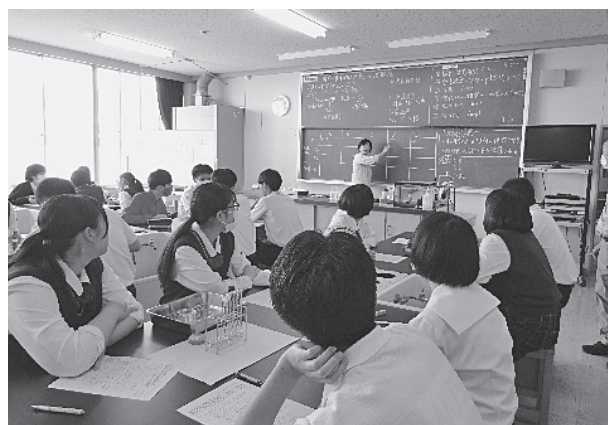
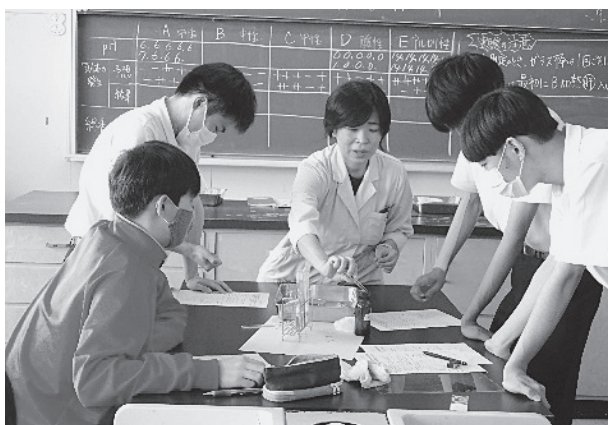
授業公開週間 アピール授業

理科学習指導案

高 田 冬 深

- 1 実施日時・場所： 6月13日(火) 1校時 化学室
- 2 実 施 科 目： 生物基礎
- 3 学 年 ・ ク ラ ス： 3B
- 4 単 元 名： 生命活動とエネルギー 「代謝を進める酵素」
- 5 本時のねらい： 実験を通して酵素の基本的な性質について正しく理解する。
- 6 学 習 の 流 れ

学習活動(50分)	指導上の工夫・留意点	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらいの確認 ・ 実験器具の確認 ・ 試験管に基質である過酸化水素を入れ、pHの測定を行う。 ・ 触媒を入れたときの反応について班で話し合い予想を行う。 ・ 触媒を入れて気体の発生を確認し、線香の火を入れたときの反応を観察する。 ・ 各班の結果を黒板にまとめる。 ・ 実験結果からわかることを考察する。 ・ 後片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 酵素の基本的な性質を確認する。 ・ 実験器具の取り扱いに注意し、ガラス器具を丁寧に扱うよう徹底する。 ・ 試薬が手につかないように留意する。 ・ 基質と触媒の関係を再度確認し、予想を立てやすいよう補助する。 ・ 火の始末について徹底させる。 ・ 生の肝臓と加熱済肝臓、pHの違いによる反応の違いについて意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班で協力しているか。 ・ 正しい手順で取り組んでいるか。 ・ 根拠を示して予想できているか。 ・ 班で結果を共有し、協力して考察できているか。



授業参観シートより

☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

I ＜導入＞参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- 化学室の黒板(2面スライド)をうまく活用していたため、生徒が常に学習目標や流れを意識することができていた。
- 本時の目標はプリントにも明記されており、板書もされているので、生徒は十分意識して授業に臨むことができる環境だった。実験の流れもわかりやすく板書されていたので、迷わず参加できるように工夫されていた。
- 「本時の目標」と「授業の流れ」が共に黒板に明記されていた。特に「授業の流れ」は①～⑥に分けて実験の手順が簡潔に書かれていて、大変わかりやすかった。

II ＜展開＞参観のポイント ③「探究」を意識した発問

④生徒の主体的な学習活動

- 「カタラーゼの性質」を探究するという目標が明確であり、実験内容と見事にマッチしていた。実験を行う際にグループ内でのコミュニケーションが取れている様子が窺えた。
- 予想→検証という明確な目的が設定されていた。考察のまとめ方が難しいと感じた。
- 「手順の確認・準備・pH測定→予想を班ごとに発表→触媒を入れ観察」という流れが生徒の主体的な学習と探究する姿勢に繋がっていると思った。予想して実験に臨むことは大事だと思った。心配していたより、生徒はすばやく実験に取りかかり、積極的に参加していたように思う。

III ＜整理＞参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- 「酵素の性質でわかったこと」を記入する際、もう少し個人で考える時間が取れば良かった。時間が足りなかったためか、考える間もなく教師が説明に入っていた。
- 実験結果をもとに、酵素の働く条件をもう一度確認することができる振り返りとなっていた。ただ知識として話を聞くだけではなく、実験を伴うことによって知識定着につながる大変面白い授業を参観させていただきました。

☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- グループ内で予想を立てるときに、教師が「相談」を促す支援の言葉がけを行っているところがよかった。
- 各グループの予想や結果を全体で確認(共有)する場面があってよかったが、例えば各グループ1台タブレットを使い、記録係が入力した画面をスクリーンやタブレットで映せば時間を効率的に使えるかもしれないと思った。
- 正味40分という制約の中で、「思考」に割く時間があまり捻出できなかったという印象を受けた。次の授業の際に振り返って補っていければよいと思う。
- 流しが実験室に2つしかない状態で、時間内に安全に実験を行うのは難しいが、それが達成でき、生徒の主体的な学びに繋がっている授業であったと思う。

授業公開週間 アピール授業

英語科学習指導案

伊 藤 寛 大

- 1 実施日時・場所：10月27日(金) 4校時 1A教室
- 2 実施科目：英語コミュニケーションⅠ
- 3 学年・クラス：1A
- 4 単元名：L6 What Is Happiness? Part 2
- 5 本時のねらい：自分なりの英文解釈・意見の提示ができる。
- 6 学習の流れ

学習活動(50分)	指導上の工夫・留意点	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標の確認 ・ リスニングタスク調べ学習 (内容理解1)《10分》 ・ T/F Questions (内容理解2)《3分》 ・ 新語の確認(ペアワーク) 《5分》 ・ 要約(内容理解3) 《7分》 ・ 本文理解(内容理解4) 《10分》 ・ 意見交換《10分》 ・ 音読《5分》 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 板書の確認 ・ 音声のみの情報、ペアやクラス全体で情報共有 ・ 時間設定90秒、未知語が多いまま(間違いを許容) ・ 能動的なペアワークを促す ・ 時間設定150秒、初見の英文音読 ・ 未知語の推測、小数点の読み方などをペアワークにより情報共有 ・ 本文の主張を自分の言葉で解釈させる、意見交換の促し、簡単な英語で表現できるかの問いかけ ・ 音読スピードの重視 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1度で聞き取りができる ・ 正しい発音ができる ・ 間違いを恐れず音読できる ・ 文脈等から未知語を推測できる ・ 自分の意見を相手に伝えることができる ・ 正確な音読



授業参観シートより

☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

I <導入>参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- 非常にテンポよく、生徒に飽きさせない流れであった。
- リスニングでは生徒がものすごく集中した表情・姿勢であることに驚いた。
- 導入からリスニングに集中して取り組み、その後の素早い授業展開にもしっかりとついていく生徒の姿を見て感心しました。覚えることや考えることがたくさんありますが、楽しみながら授業に取り組めるように工夫(じゃんけんして問題を出す人と答える人に分かれるなど)されており、1時間を通して常に活動的であったと思います。

II <展開>参観のポイント ③「探究」を意識した発問

④生徒の主体的な学習活動

- 生徒主体の活動がほとんどで、生徒も意欲的に学んでいた。
- 調べる国を決めてインターネットで調べる学習活動がスムーズに進められていた。部分的な参観だったため、それが単元の中でどのような意味を持つものだったのかは分からなかったが、主体性に寄与するものであるだろうと推し量った。
- 何によって、幸せと感じる満足度が低くなるかを考えたり、意見交換したりする時間をもう少し設定してもよいくらい、生徒たちはいろいろ考えていました。とても興味深い題材でした。
- 先生の指示のテンポが良く、スムーズに生徒が指示を理解して活動できていました。
- 答え合わせのときにICTを使うことで、全体への把握ができるだけでなく、スピード感もあり、非常にテンポが良い授業でした。また、初めにどの国でもいいから国の特徴を調べるために生徒がタブレットを使う場面があり、調べて同じグループや周囲の生徒へ報告するところも楽しそうにしていた姿が印象に残っています。

III <整理>参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- 伊藤先生の「ジェンダーに対する意識」の問いかけが効果的だったと感じました。
- 生徒が活発に活動していた。

☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- 生徒に飽きさせないテンポの良さは、非常に参考になった。丁寧にゆっくりも大切だが、スピードも生徒の思考を促すポイントになるのだと学ぶ事ができた。
- 新語の確認の際のじゃんけんをして勝ち負けで話す聞くを決めるとか、プリントを見る見ないとか、私にはとても新鮮でした。1時間の間に、多くの要素が詰め込まれていて、非常にメリハリのあるパワフルな授業を観ることができ勉強になりました。ありがとうございました。

授業公開週間 アピール授業

保健体育科学習指導案

藤 原 淳 一

- 1 実施日時・場所： 6月21日(水)1校時
- 2 実 施 科 目： 保 健
- 3 学 年 ・ ク ラ ス： 2 B
- 4 単 元 名： 思春期と健康
- 5 本時のねらい： 性意識と性行動について、社会の事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見する。

6 学 習 の 流 れ

学習内容(●：生徒の活動)	指導上の留意点	評価場面・評価方法
本時の内容・目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の授業の見通しが持てるように、パワーポイントを使って流れを説明する。 	
1 性意識とその尊重 (1) 性意識の男女差 <ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートの空欄を補充しながら、性意識には男女差があることを確認する。 ● 性的指向と性自認について、教科書の記述を元に確認する。 (2) 気持ちなどの尊重 <ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートの空欄を補充しながら、性に関する理解不足に基づく言動はさまざまな誤解やトラブル、犯罪の原因となることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間巡視しながらワークシートに取り組んでいるか確認する。 ・ 教科書の資料も用いながら、性意識には男女差や個人差があること、相手への配慮が重要なことなどを説明する。 	
2 性に関する情報と性行動 (1) 身の回りにあふれる性情報 <ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートの空欄を補充しながら、性に関する情報は真偽が不確かだったり偏ったりしていることについて理解する。 		

<p>(2) 信頼できる性情報と性行動の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ワークシートの空欄を補充しながら、責任ある性行動の選択、信頼できる情報源について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視しながらワークシートに取り組めているか確認する。 ・教科書の資料も用いながら、性についての情報源や性行動の選択について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組んでいる。 <p>〔観察、ワークシート〕</p>
<p>発問1：今後のLGBT理解促進について、考えたことをまとめてみよう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ●自分の考えをまとめる(2分) ●グループで考えをまとめる(3分) ●発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者を決めさせて再度文章の確認をさせる。 	
<p>発問2：デートDVについて、考えたことをまとめてみよう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ●自分の考えをまとめる(2分) ●グループで考えをまとめる(3分) ●発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者を決めさせて再度文章の確認をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを持ち、周りと協力して結論を出し、考えを記述している。 <p>〔観察、ワークシート〕</p>
<p>本時の学習内容を振り返る。 次時の学習内容を確認する。</p>		



授業参観シートより

☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

I ＜導入＞参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- タブレットをプリント・検索エンジン・Google Jamboardとフルに活用していた。生徒は与えられた課題に真摯に取り組む姿が見られた。
- スライドで分かりやすく提示されていました。生徒たちも集中して話を聞く姿勢で臨んでいました。
- スライドを使って、効率的に進めていた。
- 生徒は先生のお話をよく聞き、集中して授業に取り組んでいました。ワークシートをタブレットでデータとして配付する方法が新しい。必要に応じて生徒がデータ加工もできるので、良い方法であると感じました。
- スクリーンに明示されていたため、瞬時に生徒へ伝わっていた。
- 導入部分は参観できませんでした。
- パワーポイントで表示されており、黒板に書く時間を短縮できる点が良いと思う。

II ＜展開＞参観のポイント ③「探究」を意識した発問

④生徒の主体的な学習活動

- メインとなるグループワークの時間を拝見しなかったのが、「展開1」までの状況になりますが、生徒がやや受け身になっている印象がありました。
- LGBTを取り巻く社会問題を自分事として考えることができる、よい発問であったと感じました。グループ討論の時間は、ワークシートやGoogle Jamboardも活用できるように準備されており、ICT活用という部分でも工夫されていました。
- 穴埋めのワークシート、考えをまとめるワークシート、Google Jamboardなど積極的に活用していた。
- 課題に取り組ませる際、考える際の視点を提示していたのが良いと思いました。「自分の身に置き換えて考えてみよう」など。
- 授業の前半でワークシート、後半でグループワークという流れはシンプルであり、学習内容の理解のために効果的であったと思う。ワークシートへの記入が紙ではなくパソコン入力であることが新鮮に映った(そのチェックはどうするのかという疑問が生じた)。グループワークの段取り(座席や役割の指定など)がスムーズだった(今回の「記録係」は何のためなのか疑問が生じた)。
- ICT活用に慣れている／慣れさせているのが素晴らしかったです。
- 「考えたこと」ではなく、特定の話題(トランスジェンターのトイレ利用・大会参加等)についてピンポイントで話し合わせてもいいのかなと思いました。

- 後半参観できなかったが、自分の考えとグループの考えをまとめ、発表する活動は生徒の主体的な活動であったと思う。
- ワークシートが全てパソコン上で配付・提出になっているので、生徒の正答率やどんな解答をしているかをすばやく把握できるのだらうなと思いました。パソコンを効果的に使って授業を展開されていて、参考になりました。
- 自分の考えを文章で打ってグループで意見をまとめる活動に関してですが、いきなり文章を書くよりは、メンバーで話し合いながらキーワードをあげていき、発表者がそのキーワードを見ながらグループの考えをまとめて話す、という方が良いのではないかと思います。(文章を書く行為は時間がかかるので…)せっかくお互いにグループになって向き合っているので、話し合う時間を多く確保してはどうでしょうか？

Ⅲ ＜整理＞参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- 大人もまだまだ勉強が必要な内容を授業で扱うのは大変だったと思いますが、今日的な問題について生徒が自ら考える良い契機になると感じました。
- グループワークも生徒それぞれ積極的に参加していた。
- 2題のグループワークは時間配分として厳しいと思っていたが、やはり1題で終了となっていた。
- 最後まで参観できなかったので話題に出ていれば申し訳ないのですが・・・「トランスジェンダー専用の大会を用意する」という班と「区別することがかえって差別になる」という班があったので、その相対する意見から話題を広げて考えさせてもいいのかなと思いました。

☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- 男女比等考慮した結果だと思いますが、1グループ6人は多いと感じました。
- ペーパーレスの試みが新鮮でしたが、「書くこと」についての意識の変化を他教科と共有していかなければならないと思いました。
- 生徒指導と結びつく重要な授業内容だと思いました。
- お忙しい中しっかり準備されて授業に臨まれており、素晴らしいと感じました。お疲れ様でした。
- 議論が大きく分かれる内容なので、もう少しじっくり取り組んだり、論点を絞って意見を聞いても面白かったのではないかと感じた。
- 規律が保たれ、メリハリのある授業でした。勉強になりました。お疲れ様でした。
- 「性意識」という、生徒にとってかなり「自分事」である学習内容をいかに扱うか。興味本位とならないよう慎重に扱っていたという印象を受けたが、テーマの設定や発問について、もう少し生徒の興味関心を高めるような文言の工夫があればと感じた。

- 授業案に盛り込まれていたデートDVまで達していなかったのも、この授業は「LGBTQ」に絞り込んでもよかったのではないかと思います。
- グループワーク時の資料(法律の紹介)では、生徒が出す意見を誘導する内容が含まれていることが気になった。
- 全体的には、ICTをスムーズに使いこなしていて、大いに勉強になりました。(生徒の作成物の「共有」について、ぜひ教えてほしいと思います)
- 「懸念されること」がテーマだったので仕方がないかもしれませんが、LGBTQsの当事者が教室に在る可能性も考慮する必要があるかなと思いました。生徒各個人の意見の中には一昔前に比べて寛容な意見が多くなっている印象だったので。
- タブレットを使わずにプリントでやる場合に比べ、どのくらい主体的な学習になっているのか気になりました。
- 思春期の生徒達に対して、クラスによっては行うのが難しい題材の授業であったと思います。実際にニュースになった事例や他県の高校生の例、また今までの先生の教え子の例など具体的なものを多く提示して、生徒が自分のこととして考えられるようにご指導していただければと思います。お疲れ様でした。

- 1 実施日時・場所： 6月19日(月) 2校時 201教室
- 2 実 施 科 目： 原価計算
- 3 学 年 ・ ク ラ ス： 2AB(基礎コース)
- 4 単 元 名： 月末仕掛品の評価(1)平均法
- 5 本時のねらい： 全ての総合原価計算に必要な月末仕掛品の金額を正しく算出する。
- 6 学 習 の 流 れ

学習活動(50分)	指導上の工夫・留意点	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらいの確認 ・ 仕掛品勘定の確認 ・ 完成品原価を計算 ・ 加工進捗度の意味 ・ プリント問題 ・ 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別原価計算と総合原価計算の違いを確認する ・ 仕掛品勘定の貸借構成と加工進捗度の関係を確認する ・ 総合原価計算における完成品原価の算出方法を確認する ・ 材料費と労務費・製造間接費の違いを確認する ・ 問題集と同程度の計算ができるよう確実に習得する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勘定の構成を説明できるか ・ 計算式を正しく使えるか ・ 加工進捗度を使い分ける ・ 金額を算出できるか



授業参観シートより

☆「生徒の様子」や「ICT活用」について、感想や気づいたこと

I ＜導入＞参観のポイント ①本時の目標 ②授業の流れ

- ①本時の目標は『総合原価計算の基本』とありましたが、『月末仕掛品の計算(平均値)を求められる』が具体的で生徒の目標に適していたのではないかと思います。
- ②授業の流れも記入しておく生徒は今何をやるべきなのかを確認できるので必要だと思います。
- 発問で興味を引き起こされ、問題演習にスムーズに入っていた。
- たけや製パンの「バナナボート」の製造を例に、生徒に興味・関心を持たせる工夫があった。

II ＜展開＞参観のポイント ③「探究」を意識した発問

④生徒の主体的な学習活動

- 説明は非常に丁寧であり、分かりやすいと思いました。もし、自分で教科書を読んで問題に取り組むようにするとなぜそうなるのかという疑問などを考えることができるようになるのではないのでしょうか。
- 生徒の身近な例を用いた例で、生徒も考えやすかったと思う。
- 製造工程を例に、加工進捗度や完成品換算量を出す意味をわかりやすく説明していた。
- 真面目に取り組んでいる様子が伺えました。

III ＜整理＞参観のポイント：本時の目標に対する振り返り

- 少し時間が不足していたようですが、生徒が今時の内容を理解できたのか確認する方法として、Google Formsを活用し生徒理解度を確認するなどしてはどうでしょうか。
- 丁寧な指導で、発問から問題演習まで落ち着いて取り組んでいた。
- 月末仕掛品の評価がなぜ重要か、大量生産を行っている「たけや製パン」を例にすることで、理解の深化が図れていた。

☆授業全体を通して、感想や気づいたこと

- 教室環境が整理整頓されており、落ち着いて授業に取り組んでいたと思います。黒板に書く文字の大きさはもう少し大きくても良いのではないかと思います。
- 授業を参観させていただきありがとうございました。
- 講義と演習の形でしたが、説明する中で「～ですか？」という言葉遣いによって、生徒は各自思考することができていたのではないかと思います。

令和5年度 ICTを活用した授業実践例

教科名(科目名)	商業(ビジネス基礎)
授業者名	秋 島 亜里紗
ICTの活用場面・活用の仕方	<ul style="list-style-type: none"> Google Formsで重要用語に関する選択問題を作成し、問題が毎回自動的にシャッフルされて表示されるように設定した。 毎回授業開始時のオープニングクエスチョンとして活用することで、生徒たちの基礎的基本的な知識の定着につなげることが目的である。
生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> クラス全員が同じ Google Formsの問題に挑戦しているものの、一人一人表示される問題順が異なるため新鮮に感じたようである。毎回表示される順番が異なるため、自主的に繰り返し挑戦する様子も見られた。
授業者の感想	<ul style="list-style-type: none"> Google Formsの質問の順序をシャッフルして表示させる機能は簡単に設定できるため、前回の振り返りや重要用語の確認など生徒に何度も繰り返し挑戦させたいものに関しては、生徒が飽きずに取り組むことができるために有効だと感じた。

【Google Formsにおける生徒画面と設定方法】

第1章①ビジネス基礎検定対策

このフォームは全商商業経済検定の語句をクイズ形式で楽しく覚えることを目的に作成しています。
下記の送信ボタンを押したあと、自分の解答の正誤を確認することができます。
何度でも挑戦できるので空き時間を活用して取り組みましょう！

* 必須の質問です

メール *

石油や石炭などの化石エネルギーとは違い、太陽光や風力、地熱といった * 0 ポイント
た自然界に存在するエネルギーのこと。

☐ 環境可能エネルギー
☐ 再生可能エネルギー
☐ 再生不可能エネルギー

質問 回答 設定 合計点: 0

表示設定
フォームと回答の表示方法を管理できます

フォームの表示

進行状況バーを表示 ☒

質問の順序をシャッフルする ☒

送信後

確認メッセージ
回答を記録しました

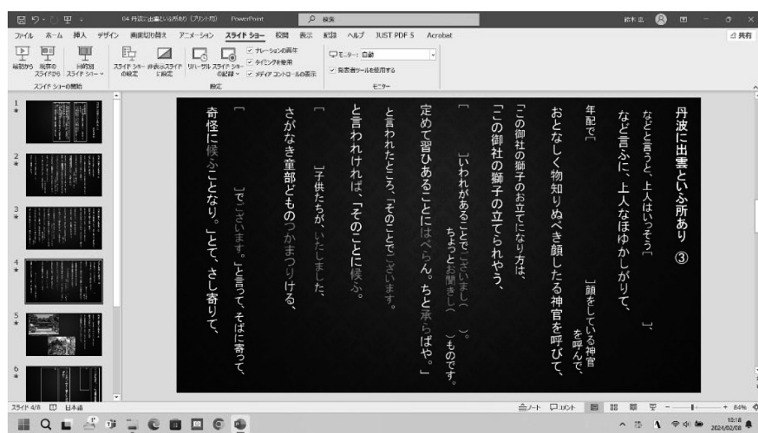
別の回答を送信するためのリンクを表示 ☐

結果の概要を表示する
結果の概要を回答者と共有できます。重要情報 ☐

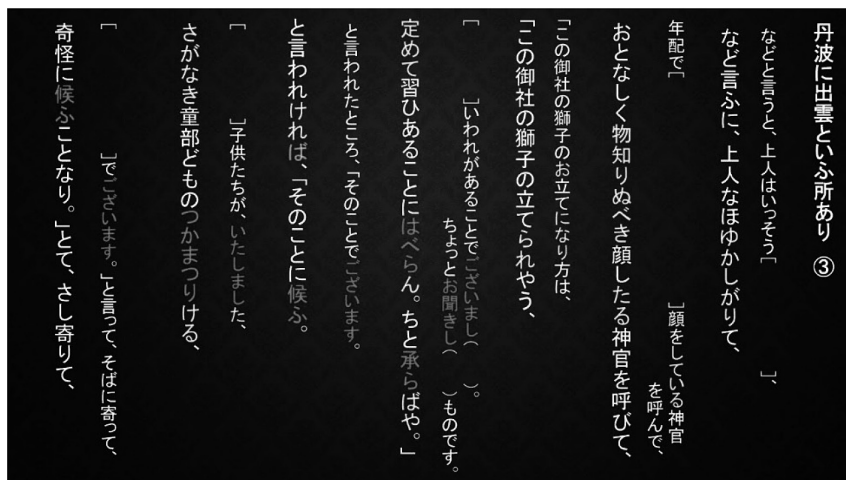
制限事項:
すべての回答者に対して自動保存を無効にする ☐

デフォルト

教科名(科目名)	国語(選択C 古典A)
授業者名	鈴木 恵一
ICTの活用場面・活用の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 古文、漢文ともに、本文と口語訳の解説などはパワーポイントを用いて行う。登場人物や主語、重要語句、文法、敬語、句法などについてはあらかじめ色分けをして、見てすぐにわかるようにしておく。ただし、黒板を用いて解説する場合もある。 生徒にはプリントにして配付する。重要な口語訳、単語、句法などについてはアニメーションを用い、空欄補充の形式にして取り組ませる。 週2時間と時間に限りがあり、音読を重視しているので、この形式を採用している。
生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> 概ね良好であった。
授業者の感想	<ul style="list-style-type: none"> 準備に多少時間はかかるものの、進度は早まる。 登場人物や当時の人々の心情や行動などを深く考える機会を増やすことができる。 電子黒板であれば、その場でダイレクトに書かせたりできるのでさらに効果的だと考える。



(授業者のスライドショー)



(生徒配付用プリント)

教科名(科目名)	英語
授業者名	橘 克 明
ICTの活用場面・ 活用の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・ Google Formsで毎週の小テスト ・ Google Classroomで出席確認 ・ Google Classroomで本文、本文和訳、解答、本文の音声を配信→スマートフォンでの家庭学習(スマートフォンで英語の音声も聞ける) ・ 生徒がプレゼン(英語での発表)で、パワーポイントや書画カメラを使って発表 ・ スプレッドシートを Google Jamboardのように使い、問題を一齐に解くなど
生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ Google Formsでの小テストは間違ったところをすぐに確認できるので良い。
授業者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒のパソコンを使ったプレゼンは良くできていた。 ・ Google Formsでの毎週の小テスト作成(2学年分)は負担が大きく、今後はMonoxerなどに変更したい。 ・ Google Classroom経由でスマートフォンでの家庭学習がどれだけなされているか疑問はあるが、生徒からアップの要請はある。 ・ 学年や科目によってICTを使う場面を考慮しているが、Chromebookのようにこちらでコントロールできるとよい。

数学的活動の各場面におけるICT活用について

教諭 山 崎 史 織

1 概要

文部科学省の「算数・数学科の指導における ICTの活用について」において、「中学校・高等学校数学科では、学習内容の抽象度が高まるとともに、複雑な問題を扱う学習等が増加するため、ICTの活用で理解を促進」と記載されている。また、国のGIGAスクール構想を踏まえ、本県の「学校教育の指針」でも「ICTを活用した教育の推進」が全教育活動を通して取り組む教育課題に挙げられている。

今年度の本校の研修テーマが「主体的・探究的な学びの実現に向けた秋商教育～ ICT機器を活用した授業実践と授業改善～」であることも踏まえ、数学的活動の各場面におけるICT活用について改めてまとめ、生徒の学習指導に生かしたいと考えた。

2 数学的活動の各場面における活用可能なコンテンツと活用場面

本校において、以下の学習コンテンツにおける想定される活用場面は記載のとおりである。

◎：授業 ☆：生徒の自宅学習 ★：休校中の生徒への指導

*：日本語が得意ではない生徒への指導

コンテンツ名	活用方法	備考
◎☆★ 数研出版デジタルコンテンツ	教科書に掲載されたQRコードを読み取るか、URLを入力すると、数研出版のデジタルコンテンツ用Webサイトを活用できる。 「連続的な動きのある問題・説明など、紙の上で表現しづらいものの理解を助けるコンテンツ」や「基本的な問題にくり返し取り組むことができるコンテンツ」などにリンクできるようになっている。	△教科書の採択が必要。
☆ 数研Library	「問題/ 解答/ 解説」が1セットになったカードで、自己判定しながら学習を進める学習コンテンツ。数学Ⅰと数学Aの公式集を無料で利用できる。ストアから入手し、1問1答式の問題カードの空欄に埋める形で学習できる。	△学校単位の購入も可能だが、購入できるのは数学Ⅲの範囲のみ(解説動画集)。
◎☆★ 数研出版 短期完成 データの分析 ノートコンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に使用できるパワーポイントデータが全項目全問題に用意されている。採用校は、「チャートラボ」からダウンロードして使用できる。 自学学習を助ける解説動画が用意されている。各項目の要項と問題が音声付きの動画で解説されている。 	△学校採用専用書籍(341円)の購入が必要。 △ネットワーク環境が必要な場合が多い。

	<ul style="list-style-type: none"> ・統計グラフ作成コンテンツ(1つのデータに対してさまざまな統計グラフを、Web上で簡単に作成することができるコンテンツ)が用意されている。 ・生徒も自由に利用できる、学習した公式・用語をWeb上で簡単に確認することができる「公式・用語集」コンテンツが用意されている。 	
◎ GRAPES	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーソフトウェア。自由に複写・配布・使用することができる。 ・高校レベルで登場する関数によるグラフや軌跡を様々な角度から見るができる。 ・生徒が、関数の動きを自分でドラックして動かすことにより主体的に学習できる。 	△Windows上で動作するため、ダウンロードが必要。 △Vista,XP,NT,Me,98,95は、最新版サポート対象外。 Windows 10, 8用。
◎☆☆ GRAPES-light	<ul style="list-style-type: none"> ・GRAPES-lightは、より広い環境で動作するGRAPESのサブセットで、GRAPESの基本的な機能をほぼすべてカバーしている。 ・GRAPESとのファイル互換性あり。GRAPES-lightにはiOS版とWeb版がある。また、東京書籍教科書サンプルが用意されている。 	
◎ Studyaid D.B.オンライン ブラウザ版	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ授業で使うタブレットに問題を送信しておけば、授業中にそのまま投影できる。また、授業内で生徒の状況に合わせ、その場で問題を検索し問題を投影することができる。 ・生徒の端末に配信することができる。 例)あらかじめ発展的な問題を用意しておけば、早く解いた生徒に個別に配信できる。 	△Studyaid D.B. ver18.4以上が必要。 △オンラインライセンスが必要で有料。
◎☆☆ NHK for School アクティブ10 マスと！	生きるためにマストな数学力を身に付ける番組。 とある中学校に通う主人公たちが、ちょっとした問題に直面する日常をミュージックビデオ風に紹介している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「数と式」、「データの活用」、「関数」、「図形」、「数学的活動」について各10分の動画を見ることができる。 ・いったいどんな問題に悩んでいるのか、どうやって考えればいいのか、どうすれば解決できるのか、ゆっくりと紐解く。 ・「数学的活動」に対応した教員向けの教材や授業プラン、ワークシートも見ることができる。 	△対応している分野が限られている。

<p>◎☆☆ STEAM ライブラリー</p>	<p>・「知る」と「創る」の循環的な学びを実現するための教材コンテンツや指導案などが1カ所に集約されたプラットフォーム。小～高を対象に主教材(動画等)＋補助教材で構成し、学習指導要領との紐づけや指導計画・指導案の掲載など、学校等の授業内で使いやすく工夫することで、「学びのSTEAM化」の拡大、普及、発展に努めている。さらに、社会と接続されたテーマとしており、SDGsにも関連づけられた教材として、民間事業者や高校、大学、研究機関などが連携し、コンテンツ開発を行っている。生徒自身がいっつも視聴・活用可能な形で学べる教材として、オンライン上に掲載、配信されている。</p> <p>・エッセンスの一つとして「教科横断」があり、「多様で横断的なテーマでの学び」を通して、学習者の「ワクワク」を誘発する工夫や「発見」、「探究・創造」、「共有・振り返り」の循環を促進する仕組みになっている。</p>	
<p>◎☆☆ Google Chrome</p>	<p>Google Classroom、Forms、Jamboard、・・・などのGoogle製アプリケーション間の連携はとてもスムーズであるため、協働学習や個別最適な学びに活用しやすく、授業で使う際にもストレスなく作動できる。一斉指導時はもちろん、自宅学習の学習コンテンツ・連絡コンテンツのひとつとして活用することができる。</p>	<p>△アカウントの設定が必要。 △ネットワーク環境が必要。</p>
<p>＊☆☆ 高校数学動画 コンテンツ(京都教育大学)</p>	<p>日本語指導を必要とする外国にルーツを持つ高校生や、病気欠席、不登校などで個別指導を必要とする高校生たちのために、多言語(日本語、ポルトガル語、ベトナム語、中国語、韓国・朝鮮語、英語)に対応した高校数学動画コンテンツ。いつでも、どこでも、どの段階からでも、高校数学の内容を学習することができる。</p>	<p>△まだ対応していない言語がある分野もある。</p>
<p>☆ モノグサ ※R 6 から学校として導入予定</p>	<p>解いて「憶える」記憶アプリ。AIを活用したアダプティブラーニングにより、知識習得や記憶定着を可能とするアプリ。個人の記憶状況から得意・苦手を把握し、憶えるために最適な問題を自動生成。必要に応じて問題を作問することも可能。</p>	<p>△算数・数学の小中学校の内容は、無料で使用できるが、間違っただけに確認できるのが答えのみの点がネック。 △高校の内容は有料。</p>

3 「主体的・協働的に学び合う機会」としてのICT活用実践例

<例1 1年生 数学I>

「2次関数が実生活でどのように活用されているか」について

- ①まずは個人でタブレットを活用して調べる。
- ②小グループでGoogle Jamboardを活用しながらまとめる。
- ③各小グループの代表が発表し、全体で共有する。

※下図は授業で生徒が入力した画面の一部

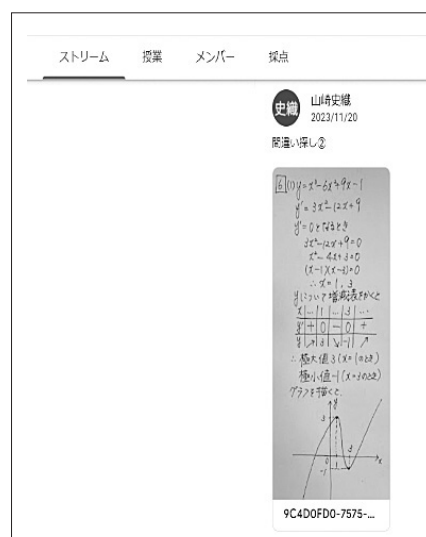


<例2 3年生 数学II>

「3次関数の最大・最小を求める」ことについて

- ①問題を1人1人解く。
- ②教員が用意した誤答例をGoogle Classroomで投稿し、間違い探しを個人で考えさせる。
- ③ペアの人と「どこが、なぜ間違っているのか」、「どのように記述すべきか」を話し合い、共有させる。
- ④スクリーンに誤答例を写し、くじで指名した生徒に「どこが、なぜ間違っているのか」、「どのように記述すべきか」を発表させ、全体で共有する。
- ⑤個人でノートの直しを行う。
- ⑥類問に取り組み、定着を図る。

※下図は授業での配信画面の一部



4 まとめ

今回の考察を通して、ICTを活用する学習コンテンツは日々進化し、教育活動への広がりを見せていることが改めて分かった。と同時に、数学的活動を促進させるためにどのようにコンテンツを活用するかが今まで以上に問われると感じた。ICTの活用が目的となるのではなく、あくまで生徒の理解深化と学力向上のため、ICTを活用する場面を適切に選択する力が求められると考える。指導の土台となる教科指導力向上のために一層研究と修養に努めていきたい。

ビジネス実践①

ビジネス実践「AKISHOP」の取り組み

AKISHOP担当 大久保 薫

1. はじめに

平成14年度から取り組んでいるビジネス実践は22年目を迎えました。本校のビジネス実践は学校全体を一つの企業に見立てて、全校の生徒・職員がビジネス基礎講座・AKISHOP・キッズビジネスタウン・エコロジカルビジネスの4つの部門に分かれて活動します。

今年度のビジネス実践には大きな変革がありました。それは県内に3校しかないユネスコスクールの1校としての本校の活動を見直すことです。ビジネス実践推進委員会が中心となって計画を立て、昨年度のビジネス実践報告会を終えた1月から3月の間に、ユネスコスクールの理念や活動を再確認し、SDGsや秋田の地域課題について学び、ビジネス実践でできることを全校の生徒が話し合いました。令和5年度のAKISHOPのテーマ「未来へのおくりもの～誰一人取り残さない持続可能な社会へ向けて～」には、「一つしかないこの地球で、皆が未来も暮らし続けられる社会を実現するために、今できることをしたい」という生徒たちの思いが込められています。こうして、「ユネスコスクールとしての自覚を持ってビジネス実践活動を行う」という新たな視点を取り入れることができました。



2. 年間活動計画

1～3月



校内でのリモート授業の様子

- ・今年度の学習の総括と次年度の展望(総探担当)
- ・ユネスコスクールの理念についての説明(教頭)
- ・SDGsについての説明(教頭)
- ・SDGsと秋田や本校との関わりについてのアンケート(総探担当)
- ・秋田の魅力発見、発信についての講話(外部講師)
- ・秋田市の食品ロス削減の取組(外部講師)
- ・次年度の総探テーマについてのグループ協議
- ・次年度の総探テーマ発表

4月

- ・ガイダンス
- ・生徒、職員への希望班調査
- ・本校教員による講話「商品、サービス開発の基礎」
- ・所属班の発表と連携企業調査

5～6月

- ・連携企業への挨拶
- ・消費、販売動向の分析
- ・活動計画の立案
- ・企画書の作成、企業交渉、商品開発



7～8月

- ・試作品の評価、写真撮影

9月

- ・チラシデータの校正
- ・商品完成、商品名、価格の最終確認

10月

- ・広報活動、出店準備、AKISHOP開催、決算報告

11～12月

- ・まとめ、活動報告会準備、報告会開催



全校で行った報告会

3. 各班の活動内容

生徒会執行部

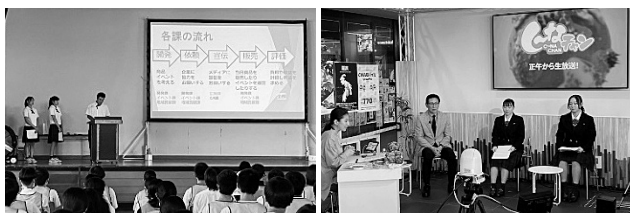
ビジネス実践活動の総括、来場者アンケート・店舗投票の実施、オリジナル商品販売、他校商品の受託、ビジネス実践の活動のアップロード

開発課

地元企業と連携し、ターゲットを明確にし、食品ロス問題に対応するなどのSDGsに配慮した商品開発、継続開発商品の改良、秋田の魅力を発信する商品開発

広報課

ポスター制作、活動風景・開発商品の写真撮影、フリーペーパー・ラジオ・テレビ・広報・秋田市内の小中高校などでのPR活動、ユネスコスクールとしての活動を紹介し、持続可能な社会やSDGsの目標への理解を深めるための広報活動



城東中学校での広報活動

秋田ケーブルテレビでの広報活動

CM課

CM制作、持続可能な社会やSDGsの目標への理解を深めるための情報発信

イベント課

「だれもが住みやすいまちづくり」を啓発するイベントの企画



廃棄物を利用したゲームやアート制作

地域貢献課

秋田の観光ビジネスを考えたツアープランの立案と実施、秋田の課題や現状を分析し、経済活性化のための提案、地元の生産者の思いに共感した商品開発



地元農家SENTE

宮原果樹園

エコロジカルビジネス

発展途上国の現状について調べ、平和やフェアトレードについて理解を深め、環境問題を解決するためのビジネス活動の提案



フェアトレード商品の販売

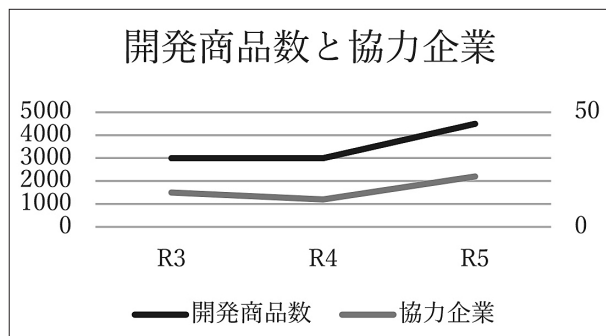
フリーマーケットの開催



4. 開発商品数と協力企業数の推移

AKISHOPはコロナ禍でも、途切れることなく開催してきました。開催が簡単ではなかった期間に、学校一丸となって協力して考え、工夫して開催できたことは、これからの地域を支える人材を育成する上で大切なことだったと感じています。

今年度は4年ぶりに様々なイベントや行事が通常開催されました。AKISHOPの開発商品数は4,500個、協力企業数22社、商品種類数39種類であり、準備した開発商品も500個増えました。しかしこの数値は開発商品に関してだけであり、実際はもっと多くの商品や協力企業があったということになります。また、たくさんの来場者があったことや、ほとんどの商品が完売した現状を踏まえると、AKISHOPは学習の成果発表の場であるとともに、地域振興の役割も担っていると感じます。この視点も大切にすると新たな可能性が見えてきます。

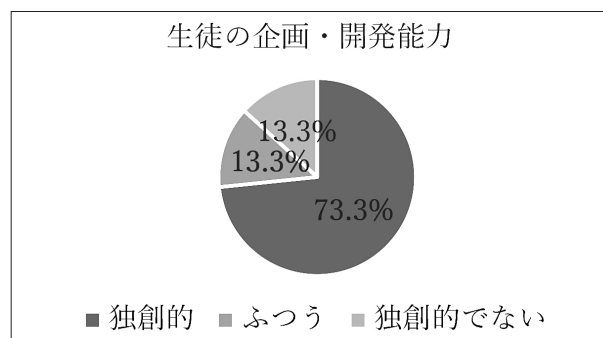


秋田市大屋根通りの様子

5. おわりに

協力企業へのアンケート調査によると、生徒の活動に対する評価が高い項目は「企画力」「行動力」「コミュニケーション力」であり、評価が低い項目は「想像力」「観察力」でした。ビジネス実践活動を通して生徒に身につけてほしい力が、ある程度評価を得ていることをうれしく思うと同時に、これらの項目は目に見えて評価できるということも見逃せないポイントだと考えます。対して、評価の低い「独創性」「想像力」「観察力」は目に見えにくい力であり、何を基準として評価するのも個人差があり、高度な力だと捉えます。

AKISHOPの活動自体が正解のない活動であり、自分たちで正解を考えて行動してきました。AKISHOPを総括する本部として、「独創性」「想像力」「観察力」を育むためには、まずは生徒たちが安心して取り組むことができるために、活発な意見交換ができる環境を作り、自由な発想を肯定して受け止め合える学習集団を作っていきたいと考えます。その中で、できることを改善しながら継続していく先に、高度な力を育てられる本校のビジネス実践学習があるのだと思います。



令和5年度キッズビジネスタウンの取り組み

キッズビジネスタウン担当 今 聡

生徒会執行部

キッズビジネスタウンがスタートして16年目となった今年度は、30店舗がそれぞれの活動の中にSDGsに基づいた目標を取り入れて店舗運営に取り組んだ。概ね目標は達成され、今までに無い視点からキッズビジネスタウンの活動を見つめ直すこともできた。

1. キッズビジネスタウンの目的

キッズビジネスタウンとは、小学生以下の子ども達が市民となり、「みなで働き、学び、遊ぶことで、ともに協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」教育プログラムである。小学生が模擬的に設定された街で、市民としてハローワークに行き仕事を探し、実際に働いて給料を得て、その給料で買い物を体験する教育的行事である。

本校生徒はキッズビジネスタウンの企画・運営を行う。当日は社長として子ども達の先頭に立って模擬店舗での販売などを一緒に行い、子ども達に「社会の仕組み」や「ビジネスの仕組み」を教えることを通して、学びを深めることができる。企画や運営を通して教えることの難しさや、ビジネスに必要な知識を客観的な視点から知ることができるものである。

このような活動を通して、ビジネス実践全体の目標である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を体得し、社会人基礎力を育てることを目的としている。

2. 令和5年度の活動

今年度は秋田商業高校を会場に、10月13日(金)に勝平小6年生を対象に、14日(土)には一般参加の小学生を対象に開催された。キッズビジネスタウン担当の生徒は2・3年生の30名で、以下の流れで活動した。1年生は各店舗従業員として、当日の活動に参加した。

(1) スケジュール

- ・ 5月：ガイダンス、基礎学習
- ・ 6月：店舗の模索、決定
- ・ 7月：企業への研修、交渉等
- ・ 9月：求人票、マニュアルの作成
- ・ 10月：1年生へ指導、本番
- ・ 11月：振り返りと反省
ホームページ作成
- ・ 12月：報告会の実施
- ・ 1月：ホームページ公開

(2) 今年度の開設店舗(30店舗)

分類	店舗名
公共施設	ハローワーク、銀行、税務署、救急救命士、警察署、保健所、考古学センター
小売業	コンビニ、デパート、駄菓子屋、ドリンクショップ、ドーナツ屋
サービス業	新聞社、ラジオ局、運動教室、清掃局、手品屋、写真館、プログラミング教室
製造業	手芸工房、木工工房、花工房、紙コップクラフト、雑貨屋
飲食店	稲庭うどん、ポップコーン屋、たこ焼き屋、キッズヘラ、お絵かきカフェ、ラーメン屋

3. 当日の様子

1 日目は勝平小学校の児童95名、2 日目は一般応募してくれた164名の小学生の参加があった。

今年度の開催時間は10時から14時までとし、小学生の労働時間は昨年度と同様に30分として労働の回転数を増やすよう工夫した。限られた時間の中で何度も働く小学生が見られ、複数の仕事を経験できていたように感じた。

事後アンケートから、参加者の感想は以下のようなものであった。

<小学生アンケートより>

	はい	いいえ
楽しかったか	146	0
お金の大切さを実感	145	1
ものの大切さを実感	137	7
来年も参加したい	137	2
秋商に入学したいか	63	5

<保護者アンケートより>

①何でキッズを知ったか

- ・過去に参加したから : 42
- ・秋田市広報を見て : 27
- ・情報誌を見て : 2
- ・ホームページを見て : 5
- ・知人からの話 : 14
- ・学校からの通知 : 29
- ・その他 : 1

②来場した交通機関

- ・自家用車 : 81
- ・徒歩 : 5
- ・公共交通機関等 : 1

③満足度

- ・大変よかった : 54
- ・よかった : 26
- ・物足りなかった : 4

④来年度も参加させたいか

- ・参加させたい : 83
- ・遠慮したい : 0

⑤秋商は子どもの進学先として

- ・進学させたい : 36
- ・候補に入りたい : 48
- ・考えていない : 16

4. 実施上の成果と課題

(1) 成果

生徒たちはキッズビジネスタウンでの店舗経営を通じて、「企業と連絡を取り合うことで責任感を持ちながら活動に取り組めた」「1 日目の課題を踏まえて問題解決に努め、2 日目に繋げることができた」など成長を感じ取ることができた。

また今年度は企業と密に連携を取り、当日も企業の方に来ていただく店舗が多く、充実した仕事内容になっていた。



(2) 課題

仕入の見通しや在庫管理において甘い部分があり、機会損失を出してしまった。複数の店舗で売り切れにより、店舗の営業ができなくなる状況が見られた。売り切れになると、小学生が商品を購入できないというだけでなく、仕事がなくなってしまうため、せっかく小学生が働きに来てくれたのに仕事の経験をさせられないという事態になってしまう。

今年度に出た課題を意識しながら来年度のキッズビジネスタウンをより良いものとしていきたい。

エコロジカルビジネス班の活動

エコロジカルビジネス班担当 石 塚 禎 子

今年度の主な講座

- 5 / 11 「世界が100人の村だったら」
- 5 / 25 「幸せのものさし」について考える
- 6 / 1 「JICAの活動について」
- 6 / 8 「SDGsの達成を目指そう」
- 6 / 15 「様々なものに興味を持つということ」
- 6 / 22 「環境問題×起業」
- 6 / 29 「木はがきづくりを通じて学ぶ森林保全」
- 7 / 13 「生物多様性について」
- 8 / 31 「問題とは？」
- 10 / 12 「コーヒーはどこから？どこへ？」
- 10 / 26 「上下水道教室」
- 11 / 16 「CMの作り方」
- 12 / 7 「知る」ということ



「幸せのものさし」について考えた。

エコロジカルビジネス班は、エコロジー(環境保全)とビジネス(経済活動)を両立させた「持続可能な社会」の構築のために行動する力の育成を目標にしている。ここ数年は環境問題を中心に学習し活動してきたが、今年度はユネスコスクールとして、異文化理解や国際協力の分野にも重点を置いた学習を目指してきた。

今年度は、3年生7名、2年生23名で活動した。例年通り「一般社団法人あきた地球環境会議」の協力を得て派遣いただいた講師の方々の他に、今年度は、本校の事務職員である太田直主席主査を講師に招いて、講座を実施した。

5/11 「世界が100人の村だったら」

チョコレートやジュースを用いて、世界の富の分配の不公平さを体感したり、字が読めないとはどういうことなのか考えた。

5/25 「幸せのものさし」について考える

自分にとっての「幸せ」について考えた後で、発展途上国の人々の「幸せのものさし」について考察した。

6/1 「JICAの活動について」

講師の舩屋彩子氏の海外青年協力隊としてのカンボジアでの体験を聞き、自分にもできる社会貢献について考えた。

6/8 「SDGsの達成を目指そう」

日本のSDGs達成ランキングが思いのほか低いことを知った。誰一人取り残さない社会の実現のために行動を変えようと思った。

6/15 「様々なものに興味を持つということ」

地球温暖化がもたらす脅威を知り、自分から実践していこうという気持ちを新たにすることができた。また、環境問題を様々な視点から見ることの大切さを学んだ。

6/22 「環境問題×起業」

環境問題について身近な例を用いて講義してもらった後で、自分が起業したい事業について考えた。

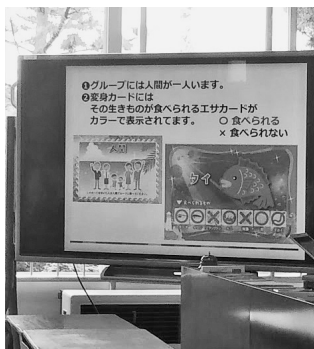


6/29 「木はがきづくりを通じて学ぶ森林保全」

秋田の森林産業やカーボンニュートラルについて学んだ。木はがき作りを通して秋田杉に親しんだ。

7/13 「生物多様性について」

カードゲームをしながら海洋生物について考えた。人間の便利な生活が環境破壊につながっていることを認識することができた。



8/31 「問題とは？」

問題の定義を「理想と現実の差」として、様々な問題を解決する糸口は、言葉なき態度であることに着目した。漢文「疑心暗鬼」の読解。

10/12 「コーヒーはどこから？ どこへ？」

コーヒー価格決定の仕組みと格付けについて学んだ。現在の取引価格と1杯のコーヒーの価格との比較を行い、利益率から現状について考察した。

10/26 「上下水道教室」

災害時の応急給水活動について学び、実際に応急給水機材の設置の仕方を体験した。今後の応急給水は水道局が行う「公助」のみでなく、地域で助け合う「共助」が必要である。



11/16 「CMのつくり方」

秋商OBで広告会社を起業した方を講師に招き「広告」について学んだ。広告を鑑賞する新たな視点を得ることができた。

12/7 「知る」ということ

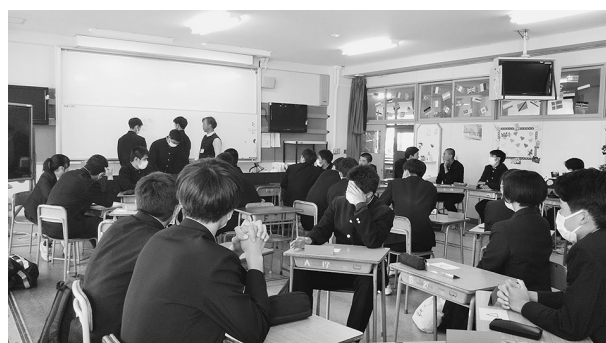
情報との向き合い方について学んだ。知り得た情報は全てではないことが前提であり、身体(聞く、話す、考える)を通して考えることの重要性を一問一答の形式から、自分自身の答えが情報に左右されていることを確認する。サン・テグジュペリ「いちばん大切なことは目に見えない」

アインシュタイン

「Information is not Knowledge」

上記のような多様な講座を受講し、SDGsや環境問題、異文化理解や国際協力等についての学びを深めることができた。

また、「地球に生きる私たち～未来へつなげるために～」というテーマでエッセイを書き、6名のエッセイを「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2023」に応募した。



「世界が100人の村だったら」ワークショップ

AKISHOPでの活動

エコロジカルビジネス班は、学習したことを活かして実践的な取り組みに繋げることを目標としている。

例年、資源の再利用を推進するというコンセプトのもと、「ダリアの無料配布」「エコ箸作り講座」「フリーマーケット」の3つの活動を行ってきたが、今年度は夏の猛暑により、ダリアの花付きがあまり良くないということで、「ダリアの無料配布」を実施することができなかった。来場したお客様からは、「今年はダリアの無料配布はないのか」という声があり、来年度は再び実施する予定である。

また、今年度は新たにダイレクトトレード・コーヒーの販売に取り組んだ。

①秋田杉の端材を活用したエコ箸作り

事前に、箸作りの講師である伊藤良治様の自宅にうかがい、箸の作り方を教えていただいた。秋田杉の端材は、伊藤様より無料で提供していただいている。AKISHOP当日は、来場者に箸作り体験を無料で楽しんでもらった。



②フリーマーケット

今年度は、ちらしの掲示や放送により、全校生徒や先生方にも品物の提供を呼びかけた。また、世界の貧困等に苦しんでいる子どもたちを支援するために行っていることや、売上は寄付することが伝わるポップ作りを心掛けた。AKISHOP当日は、用意した品物のほとんどを売ることができた。収益金は毎年、日本ユネスコ連盟へ寄付している。



③ダイレクトトレード・コーヒーの販売

今年度は、新たな取り組みとして、男鹿市にある「さとやまコーヒー」さんの協力を得て、ダイレクトトレード・コーヒーの販売を行った。



まずは自分たちがダイレクトトレード・コーヒーとはどういうものなのかをきちんと理解した上で販売できるように、太田直主席主査による講座を通して事前に学習し理解を

深め、AKISHOP当日には、コーヒー販売だけでなく、ステージにおいて学んだことを発表した。



以下、生徒たちの発表原稿である。

私たちはエコロジカルビジネス班のフェアトレード班です。フェアトレードとは「公正な取引」という意味で地球環境を守りながら、労働搾取や児童労働などの社会的な問題を解決するためのスローガンです。厳しい労働環境や児童労働により教育を受けられない子供たちの貧困をなくすことを目的としています。

今回はAKISHOPでダイレクトトレードしたコーヒーを販売し、寄付を募っています。フェアトレードは生産者の最低取引価格を保証するという仕組みであり、ダイレクトトレードは生産者と販売者が直接取引を行う仕組みという点で違いがあります。協力していただいた「さとやまコーヒー」の大西さんはエチオピアとのダイレクトトレードをされており、現地に足を運び生産者の方と話をしてお金の流れを把握することで今までの生産者の方の不利益だった仕組みをフェアな状態に戻しました。

今回そんなコーヒーの豆・粉、ドリップを委託販売させていただきました。またその売上は寄付しています。

フェアトレード班ではJICA（ジャイカ）の舩屋さんや太田さんの授業を通し多様な観点から地球の問題点を考え、発表しました。

コーヒーの実物を見たことはありますか？

実はコーヒーは赤く実り、私たちの想像する茶色い豆ではありません。私たちが実際の姿を知らないほど生産者と消費者の距離が開いているということが分かります。

「コーヒーは貧困を生み出す可能性がある」という言葉があり、それは植民地時代の名残として生産者に適切な価格が支払われていないため、私たちは安くコーヒーを買うことができていますということです。このままでは国外の貧富の格差が広がり生産者の方たちはどんどん貧しくなってしまいます。

フェアトレードはSDGsの1, 2, 5, 8, 10, 12, 13, 17の項目に当てはまっています。

フェアトレードは生産者、輸入者、製造者、販売者、消費者、の5者に関わり合い成り立っています。



JICAのコーナーを設けた



秋商SDGs活動を知ってもらうボードと募金活動



分かりやすい看板と商品説明のポスター作りに苦心！

持続可能な未来を創る～ユネスコスクールとしての取組～

教頭 佐藤 かおる

1 はじめに

「地球沸騰化の時代が到来した」と国連事務総長のグテーレス氏が指摘したように、2023年、人類は観測史上最も暑い一年を経験したと言われている。また、人類がもたらした環境への影響や気候変動の大きさを示すものとして、地質時代における新しい区分として提唱された「人新世」という言葉も、学会での認定については議論が続いているが、社会に定着しつつある。さらに、2022年に始まったロシア・ウクライナ戦争、2023年に激化したパレスチナ・イスラエル紛争は、終結の兆しも見えないまま継続している。

「社会に開かれた教育課程」という言葉が基本的な理念として掲げられているように、学校の教育活動は、現実に行き起きている社会の出来事と関わりなく営まれるものではない。本校が加盟するユネスコスクールにおける活動こそ、生徒の学びを環境保護や国際平和といった地球上の課題とダイレクトに結びつけるものではないだろうか。

この機会に、本校におけるユネスコスクール活動の過去・現在についてまとめ、その未来について展望してみたい。

2 ユネスコスクールへの加盟

本校は2009年、県内では明桜高校に次いで2番目にユネスコスクールに加盟したが、それは決して目的ではなく、数年間にわたる国際交流を中心とした様々な活動の結果であるといえる。「ユネスコスクールとは何か」「本校では過去にどのような活動を行っていたのか」については、それぞれ資料①、資料②(いずれも佐藤が作成)を参照されたい。外部団体の主催する各種プログラムやプロジェクトへの参加、海外スタディツアー、小学校等への出前授業…その精力的かつ多彩な活動ぶりには驚嘆させられる。

個人的な話で恐縮だが、私は2007年に文部科学省委託事業としてACCU〔公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター〕が主催する「韓国政府日本教職員招へいプログラム」に参加した経験をもつ。10日間の日程で韓国の教育施設を視察し教職員同士の交流を図るというものだったが、その中でユネスコスクールの活動や意義に触れる機会をもち、興味関心を抱いていた。そんなわけで、2022年度の人事異動により本校への赴任が決まったとき、期待が膨らんだ。秋田商業はユネスコスクールとしてどんな活動をしているのだろう、そして自分はどのように関わっていけるのだろう、と。

3 昨年度(2022年)の取組

2022年度のユネスコスクールとしての活動は、以前と同様に「ビジネス実践(総合的な探究の時間)」の授業において、かつての「ユネスコスクール班」が「エコロジカルビジネス班」と名称を変え、環境問題を様々な角度から学ぶという内容で実践されていた。ただし、その学びは班に所属する生徒集団の内部で完結し、校内外への広がりを欠く状況であった。

しかしながら、現代においては「SDGs (持続可能な開発目標)」という言葉が様々な政策や企業活動、我々の日常生活に広く浸透している。また、学校においてSDGsの達成を掲げて教育活動を行うことは、同時にユネスコスクールとしてのミッションを果たすことにもつながる。なぜなら、ユネスコスクールの目的の一つとして「国際社会の構成員であるという意識を持ち、SDGsの達成に貢献すること」が挙げられているからである。

そこで、12月の最終報告会が済み今年度の学習活動が一段落したところで、次年度に向けた準備を始めることとした。これまでの実践を継承しつつ、SDGsについて学び理解を深めた上で次年度の学習テーマについて考える学習活動を、以下のとおり計画・実践した。実施に当たってはICT推進委員会副委員長である佐々木一秀教諭の協力を得て、オンライン会議システムを活用した講話を1・2年生対象に行った。

1月19日	今年度の学習の総括／ユネスコスクールについて…ビジネス実践推進委員長である柏谷亜紀子教諭からの説明
1月26日	SDGsの17の目標について…教頭からの説明
2月2日	秋田の魅力発見・発信について…秋田市人口減少・移住定住促進課の講話
2月9日	秋田市の食品ロス削減への取組…秋田市環境部環境都市推進課の講話
2月16日	次年度のビジネス実践における「探究テーマ」を各クラスで考案
3月17日	ビジネス実践「探究テーマ」について…生徒会執行部が決定したテーマ(「未来へのおくりもの」)を発表

一方、2月に入ってから、ユネスコスクール本部より、5年ごとに行われる定期レビュー(ユネスコスクールとしての活動についての点検)において「中期活動改善計画」の作成及び提出を求められた。毎年行っている年次活動報告の内容から、本校の活動が十分ではないと判断されたのである。そこで、エコロジカルビジネス班担当の石塚禎子教諭とともに、次年度以降の数年間を見通した「中期活動計画」を作成した。概要は以下のとおりである。

改善計画1	校内に教職員組織として「ユネスコスクール運営委員会」を設置し、学校全体で組織的かつ継続的な活動を推進する。生徒組織として「ユネスコスクール生徒委員会」も設置し、両者が連携しながら活動をすすめる。
改善計画2	ユネスコスクールとしての使命や目的を理解し、ユネスコが特に重視する3つの分野(「平和」「持続可能」「文化の多様性」)に沿った活動を展開する。
改善計画3	地域の諸団体との連携を深め、持続可能な社会の構築のためのネットワークを築くとともに、国内外のユネスコスクールとの交流を図る。

4 今年度(2023年)の取組

上述の実践や計画に基づき、今年度は以下に示す取組を行った。

(1) ビジネス実践の授業

4月、生徒会執行部の生徒達が2・3年生全員を対象として授業オリエンテーションを行い、ユネスコスクールとして各部門でSDGsを意識した活動内容を計画・実践することを呼びかけた。その内容は以下のとおりである。

AKISHOP	SDGsに配慮した商品・サービスの考案
キッズビジネスタウン	SDGsの目標を達成するまちづくり
エコロジカルビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解班…発展途上国の現状を調べ、平和やフェアトレードなどへの理解を深める。 ・環境問題解決班…環境問題に関して学び、解決のためのビジネス活動を提案する。

以降、各部門・課・班ごとの実践的な学習活動が展開された。AKISHOPやキッズビジネスタウンが実施された10月13日～14日は天候にも恵まれ、盛況であった。各部門でのSDGsに関わる取組の例を、以下に示す。

AKISHOP	<ul style="list-style-type: none"> ・開発課…秋田の特産品を使用し「地産地消」を掲げた菓子や惣菜を開発、販売 ・広報課、CM課…ユネスコスクールやSDGsの取組などをマスメディアや近隣の学校でPR ・イベント課…廃棄物を利用したゲームやアートを制作 ・地域貢献課観光班…秋田の観光資源を活用したツアープランを企画、実施(英語でのガイド…インバウンドにも対応) ・地域貢献課地元生産者班…規格外の農産品を利用した商品を開発、販売
キッズビジネスタウン	<ul style="list-style-type: none"> ・「雑貨屋」で、自然素材を使った商品を製作 ・「税務署」で、小学生にとって働きがいのある仕事を運営
エコロジカルビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・AKISHOP開催時に、各班で調べた「平和」「フェアトレード」「環境」に関するレポートを発表(イベントの中で実施) ・AKISHOPでフェアトレード商品を販売 ・エコ箸づくり、フリーマーケット

その後の振り返り学習を経て12月14日に行われた最終報告会では、各班とも自分たちの学習活動をSDGsとの関わりを含め真摯に振り返る姿勢が見られた。

そして3学期は昨年度と同様、1・2年生を対象として次年度の準備としての学習を以下のとおり計画・実践しているところである。

1月18日	2年生：今年度の活動の振り返り（1年生は「ビジネスプラン発表会」）
1月25日	SDGsに関するクイズ…生徒会が中心となって進行
2月1日	外部講師による講話①：秋田ユネスコ協会の菊地格夫氏より
2月8日	外部講師による講話②：JICAあきたデスクの舩屋彩子氏より
2月15日	市立広島商業高校の活動紹介…生徒会が事前交流した内容を紹介
3月14日	次年度のビジネス実践「探究テーマ」考案（→生徒会で検討）
3月19日	次年度のビジネス実践「探究テーマ」発表

(2) リサイクル活動への取組

授業だけではなく、生徒が日常生活の中でSDGsを意識できるように、生徒会執行部がペットボトルキャップと不要な紙のリサイクルを呼びかけて実践した。それぞれ回収容器を生徒昇降口や各学年の廊下に置き、生徒が定期的に回収した。キャップは発展途上国の子どものためのワクチン接種のため活動する団体への寄付、古紙はトイレトペーパーとして再生という用途で役立てている。

(3) ユネスコスクール運営委員会

教頭が委員長を務め、ビジネス実践推進委員会の長である柏谷教諭（商業科主任）以下、AKISHOP・キッズ・エコロジカルのチーフなどをメンバーとして委員会組織を設置した。全員が集まって話し合う機会を多く設けることはできなかったが、以下について取り組んだ。

- ・「ユネスコスクールだより」の発行…校内の教職員に向けて、ユネスコスクールに関する理解を深めることを目的として発行した。（今年度は1号～3号）
- ・広島SDGsコンソーシアムでのオンライン発表（7月）…上述の「中期活動改善計画」策定の際に広島大学の永田忠道准教授からアドバイスいただいたという縁から、本校の取組について紹介する内容を教頭が発表した。
- ・「秋田県SDGsパートナー」への登録申請（8月）→登録承認（9月）…2021年に創設された「秋田県SDGsパートナー登録制度」の第9期パートナーとして登録された。これにより、県内の様々な団体や企業との連携の推進が期待される。なお、県内の高等学校では新屋・国学館・金足農業・男鹿海洋に次いで5番目の登録となる。

5 2024年以降の展望・課題

以上、今年度の取組を振り返った上で、次年度に引き継ぐ課題として以下に諸点を挙げてみる。

(1) ビジネス実践の内容の深化

今年度の振り返りで多く聞かれたのが「SDGsを意識する」という言葉であったが、それを「目標の達成を目指す」という段階まで深めていきたい。そのためにはまず、それぞれの部門を担当する教員一人一人が、SDGsの目的や手段について深く理解し、「ユネスコスクールとして

SDGsにアプローチする」という意識を持ち続ける必要がある。ビジネス実践の授業計画の中に、年に数回程度、ユネスコスクールそのものについて学ぶ時間が設けられてもよいのではないだろうか。

(2) 日常的な取組による意識向上

ペットボトルキャップや古紙の回収活動を継続し、より活性化させていきたい。もっと目立つ場所への回収箱の設置、呼びかけ手段の工夫、あるいは呼びかけ対象の拡大(例えば近隣の学校や町内会)など、工夫次第で活動はもっと広がっていくと思う。たかがリサイクル、されどリサイクル。「凡事徹底」の見本となる活動ではなかろうか。

また、各教科科目の授業について、次年度の年間学習指導計画を部分的に改訂し、「SDGsとの関わり」を単元や指導内容ごとに記入する欄を設けてもらった。様々な教科科目の学びの中で、教員がSDGsを意識して取り上げることによって、生徒に浸透していくことをねらいとする。新たに何かを始めるというよりは、授業内容をSDGsの視点から見直し、構成してみるということである。これによって、各教科科目の学びが「教科横断的な学び」として相互に関連付けられることも期待できる。

(3) 学校外の組織との連携強化

AKISHOPやキッズビジネスタウンでの取組を強化する形で、企業や近隣の学校等との結びつきを深め、広げていく。ユネスコスクールとしての学校の取組を幅広く地域に発信する活動も、定着させていきたい。

また、生徒会を中心とするユネスコスクール間の交流も推進していきたい。今年度3学期に生徒会役員がオンラインでの交流を始めた市立広島商業高校は、昨年度(2022年)8月、本校のビジネス実践について知りたいということで教諭1名の訪問を受けたという縁があり、ユネスコスクール加盟校でもある。同じ商業高校として、市立広商の特色ある実践を学び参考にしながら、将来的には協働で授業や行事をつくる取組にも着手したい。

(4) 組織的・継続的な取組

以上述べてきたことを実行していくためには、「ユネスコスクール運営委員会」を中心として、学校全体で取り組んでいくという意識を教職員全員がもつ必要がある。生徒については、委員会や班を設置するなどの方法で中心になって取り組む生徒を一定数確保しつつ、上級生の取組を受け継ぎ発展させていってほしい。いずれ、個人の熱心な取組によって行われるものではなく、「秋田商業高校として」目標を掲げ、組織的・継続的に取り組む体制づくりが重要と考える。

6 おわりに

果たして人類の安定的な生存は、この先も「持続」できるのだろうか。これからの時代を生きる子どもたちに、学校教育はいかなる役割を果たせるのだろうか。

直面する様々な課題から目を背けることなく、事実を正しく把握した上で多面的・多角的に思考し、未来に向かって進もうとする意志やそのために必要な能力をもつ…そのような若者を育成するために、ユネスコスクールの活動は大いに意義あるものとする。また、本校に即して言えば、生徒がユネスコスクール活動によって獲得する知識や思考力、行動力等は、正にこれからの社会で実装すべき最重要の「実学」に値するものではないだろうか。

本校のグラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）に到達する一助として、また学校の魅力化の一端を担う教育活動として、次年度以降もユネスコスクール活動を推進し続けていきたい。

参考：秋田商業高校のグラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）…学校HPより

- (1) 志を高く掲げ、主体的に自己の能力を磨き、これからの社会を担う気概をもつ生徒を育成します。
- (2) 豊かな人間性を持ち、他者と協働しながら新たな価値を創造する生徒を育成します。
- (3) 将来を逞しく生き抜く健やかな身体と自律心をもつ生徒を育成します。

「ユネスコスクール」とは

- ・ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールを「持続可能な開発のための教育(ESD)」の推進拠点として位置付けています。現在、世界180 か国以上の国・地域で11,000校以上のユネスコスクールがあります。日本国内の加盟校数は、(中略)令和元年11月時点で1,120校となり、1 か国当たりの加盟校数としては、世界最大となっています。(文科省HP「ユネスコスクール」より)
- ・ユネスコ(国際連合教育科学文化機関、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization U.N.E.S.C.O.)は、諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関です。(文科省HP「ユネスコとは」より)

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」

(ユネスコ憲章前文、1945年11月16日採択)

「この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言語又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。」(ユネスコ憲章第1条「目的及び任務」第1項)



ユネスコスクールの目的と活動テーマ

- ①ユネスコ憲章と国連憲章に通ずる理念として、基本的人権、人間の尊厳、ジェンダー平等、社会的進歩、自由、公正、民主主義、多様性の尊重、国際的な連携などを推進すること。
- ②ユネスコの任務である教育・文化・科学・コミュニケーションの分野における平和のための国際協力に資する「アイディアの実験室」として、組織や人材の能力開発と政策やモデルの構築に貢献するために、国際間・地域間協力を進めること。
- ③斬新で創造的な教育手法を開拓し、グローバルな概念を学校レベルの実践に落とし込んで実験的機能を果たすことにより、教育制度や政策の変化を促すこと。
- ④国際ネットワークの一員として、同じような志を持つ世界中の学校と知見を共有し、パートナーシップを育むこと。
- ⑤国際社会の構成員であるという意識を持ち、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献すること。

(「ユネスコスクール公式ウェブサイト」より)

秋田商業高校のユネスコスクールとしての歩み

2002(平成14)年

AKISHOPの原型がつくられる

(→翌年度から「総合的な学習の時間」が始まり、ビジネス実践の授業として展開)

2006(平成18)年

AKISHOPの中の「国際取引交流課」による活動

- ・世界の貧困や飢餓に関する研究と発表
- ・フェアトレード商品の仕入れ、販売
- ・マラウイ共和国で活動する山田氏の講演会(一般市民も参加)

2007(平成19)年

地域貢献部国際協力課を組織(生徒40名、教員3名)

(→2009年～「ユネスコスクール班」)

- ・JICA(国際協力機構)による出前講座(一年間で5回実施)
- ・「A・A(秋田・アフリカ)プロジェクト」への参加…マラウイ共和国へのスポーツ用品の提供活動
- ・AKISHOP当日…アルヴェの多目的ホールを借り、ゲストのトークや生徒発表を行うカフェを運営
- ・県内の大学生ボランティアネットワークとの連携

2008(平成20)年

- ・秋商エコキャップ運動…NPOとの連携
- ・AKISHOPでの環境保護推進と結びつけた諸活動
- ・国際理解教育奨励賞「馬場賞」受賞…受賞記念式典においてユネスコスクールへの加盟を勧められる→加盟申請

→翌年2月 ユネスコスクール加盟が実現…秋田県内で二校目、全国で約八十校目

2009(平成21)年

ユネスコスクール班の活動

- ・JICA(国際協力機構)による出前講座(一年間で3回実施)
- ・港北小学校での出前授業(ワークショップ)
- ・2010年1月 ウガンダ共和国へのスタディーツアー
…10日間(生徒4名、引率教諭2名)

カンボジアの高校生14名との交流…NPOとの連携



児童の前で挨拶するユネスコスクール班の生徒たち



HDCCの子どもたちと一緒に

2010(平成22)年

ユネスコスクール班の活動…環境問題への取組が本格化

- ・秋田県地球温暖化防止活動推進センターによる「気候チャンピオン」プログラムへの参加
- ・ひまわりプロジェクトへの参加
- ・環境問題に関する中学校への出前授業の実施
- ・**県内NGOとの連携…ネパールへのスタディツアー**（生徒計4名が参加）

2011(平成23)年

- ・県内NGOとの連携…東日本大震災の被災地へのボランティア活動
4月～10月計15回、延べ44名の生徒が参加
- ・環境問題に関するワークショップを受ける→生徒が自主的にワークショップを開催
（小学生、中学生、一般市民が対象）
- ・県内NGOとの連携…ネパールへのスタディツアー（二度にわたり生徒計4名参加）

2012(平成24)年

- ・**県内NGOとの連携…東日本大震災の被災地へのボランティア活動**
4月～10月計15回、延べ44名の生徒が参加
- ・環境問題に関するワークショップを受ける→**生徒が自主的にワークショップを開催**
（小学生、中学生、一般市民が対象）
- ・県内NGOとの連携…ネパールへのスタディツアー（二度にわたり生徒計4名参加）
- ・ユネスコスクール班が「地球温暖化防止活動環境大臣賞」を受賞

2013(平成25)年

ユネスコスクール班が「エコロジカルビジネス班」に名称変更

（以上、2008年～2013年に出版された『高校生のための国際協力入門』『高校生のための国際連合入門』『高校生のためのアフリカ理解入門』『高校生のための地球環境問題入門』『ユネスコスクールによるESDの実践』を参考に佐藤が作成）

校訓：「感謝」「勤勉」「記録」



商業科通信

2023年4月10日(月)
秋田商業高等学校
商業科
文責：柏谷亜紀子
大正9年開校
創立104年目

新学年は得意科目を作るチャンス！！

入学・進級おめでとうございます。いよいよ令和5年度がスタートします。

新型コロナウイルス感染症は未だ収束していませんが、制限されていた行動が緩和され、さまざまなことに挑戦できる生活に戻りつつあります。

皆さんは今年度の目標は決まっていますでしょうか？新しい学年になった時は、得意科目を作るチャンスです。商業科目は、1年ごとの履修の科目が多く、常に新鮮な気持ちになれます。また、簿記や情報処理で得意不得意があったとしても、新しい科目は、全員同じスタートラインに立っています。ぜひ、この年度初めを大切にしてください。得意科目が増えると学校がさらに楽しくなります。得意科目をたくさん作りましょう！！

自分の可能性を信じて、充実した1年になるように一緒に頑張りましょう。

【1学期の商業系検定】

- 6 / 1 1 日商簿記検定
- 6 / 1 8 全商ビジネス計算実務検定
- 6 / 2 5 全商簿記実務検定
- 7 / 2 全商ビジネス文書実務検定
- 7 / 9 全商ビジネスコミュニケーション検定

この他にも本校で実施できる検定があります。

申込締切は概ね試験実施日の1か月半～2か月前です。教室に案内を掲示しますので、よく確認し、積極的に挑戦しましょう。

全商の各検定は、問題形式や難易度など、全商HPで過去問が掲載されています。参考にしてください。

卒業生の活躍

～3年ぶりITパスポート合格～

3月に卒業した情報コース鈴木詠太さん（進学先：秋田県立大学経営システム工学科）が本校では3年ぶりとなるITパスポートに合格しました。この試験は国家試験で、ITを活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識を持っていることを証明するものです。

～鈴木詠太さんからのアドバイス～

とても難しい試験で結果が出るまでもとても不安でしたが、無事に合格することが出来てとてもうれしく思います。難易度がより高い基本情報技術者試験にも挑戦する意欲が湧きました。

勉強方法に関しては、基礎である単語から始め、過去問をひたすら解きました。基礎的な問題もかなり出題される印象だったので、こつこつと暗記していき、計算問題を後回しにする効率がいいと思います。また、時間を有効活用できるスマホアプリでの勉強を活用していくことで、より学習が充実していくと思います。

試験本番は、コンピュータでの試験なので、実践形式での練習もしておくと思います。

近年はネット環境が整備され大企業だけでなく中小企業や様々な業種でICTが普及しています。そのような中でITパスポートなどの国家試験に挑戦することは、さまざまな分野で活躍する力を身につけることにつながります。

皆さんも、将来につながる資格取得に積極的に挑戦してみてください！！

『「商才」は道徳を根底としている。不道徳やうそ、外見ばかりで中身の無い「商才」など、決して本当の「商才」ではない』（『論語と算盤』ちくま新書より）

これは、日本資本経済主義の父と称される渋沢栄一の考えです。皆さんは、ビジネスを学ぶ者として、この言葉をどう解釈しますか？ぜひ、自分を振り返るきっかけにしてみてください。

裏面につづく

授業紹介～広告と販売促進～（3年流通経済コース）～

実際に販売されている商品ポスターを制作しました

昨年度、3年流通経済コースの「広告と販売促進」の授業において、Illustratorを使って商品・店舗のポスターを制作しました。制作したポスターは、商品を扱っている店主に見ていただき、実際に店頭で使っていたいただきました。教科書だけでなく、実際に売られている商品を教材にしたことで、実践的な学習を行うことができました。

★『パンプキンパイ』のポスター制作

J A大潟村のロングセラー商品となっている『パンプキンパイ』のポスターを制作しました。

かぼちゃ加工工場に見学に行き、生産者から直接聞いた商品に関することや現在の状況などをもとに、プロモーションのためにはどのようなメッセージを発信するかなどを考え、2年生で学習したマーケティングの知識をもとに制作しました。

完成したポスターは、デザインの意図やコンセプトなどの説明文を添えて、J A大潟村の方々に見ていただきました。

好評だった作品は、「特産かぼちゃ生産組合長賞」「J A大潟村組合長賞」「パンプキンパイ工場長賞」をいただきました。

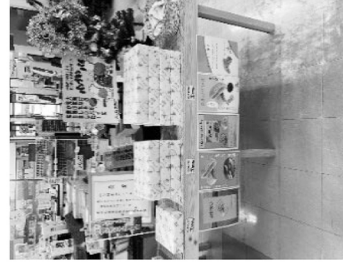
完成したポスターは、販売促進のため店舗に掲示されました。



カボチャ加工工場を見学



←みんなで試食



A コープおおがた



店舗に行き、店主の話を聞き、商品について調査



★飲食店のポスター制作

秋田市内の飲食店に出向き、店主の理念や店舗の雰囲気などを生徒が自分の目で直接確認し、ポスターやメニュー表を作成しました。

ターゲットやコンセプトなどを明確にすることで、パソコンでの制作も効率よく行うことができました。

佐藤文太さんの作品（令和4年度卒業）

校訓：「感謝」「勤勉」「鍛錬」



商業科通信

2024年1月16日(火)
秋田商業高等学校
商業科
文責：柏谷亜紀子
大正9年開校
創立104年目

SDGsの考えは古くて新しい！！

皆さんは、「三方よし」という言葉を知っているでしょうか。これは日本三大商人の一つに挙げられる「近江商人」の経営理念で、日本に古くから伝わる考え方です。三方というのは、「売り手」、「買い手」そして「世の中」の3つのことで、その3つすべてにとって利益が生まれる『高い＝ビジネス』が大切だということです。

今年度は、ビジネス実践活動でSDGsの考えを取り入れた活動を行ってきました。教科書にもそれぞれの教科の視点からSDGsについて取り上げられていたり、企業でもSDGs宣言を行ったりと、世の中全体がSDGsの目標達成を目指すことで、持続可能な社会の実現に向けて動き出しています。

「SDGs」と「三方よし」は似ていると思いませんか？この2つの目指すところは同じです。つまり、江戸時代から続く考え方で現在世界中で取り組まれていることが同じということです。私たちが商業高校で勉強しているビジネスは、国際化、情報化、ライフスタイルの変化など多くの変化に対応していかなければならないため、柔軟な考え方が必要になってきますが、「三方よし」のように、昔から続く普遍的な側面を持っていることも忘れてはならない大事なことです。

“変化”の根底には“不易（不変）”があります。変化に対応することはあっても、惑わされず真実を見抜く力を秋商での学習を通して身に付けてください。

2024年も一緒に頑張りました！！



3学期は、全商簿記実務検定、情報処理検定、商業経済検定、日商簿記検定と続きます。当日受験できなければ来年度再度挑戦ということになります。検定に向けた勉強はもちろんですが、持っている力を十分に発揮できるように体調管理もしっかりと行いましょう。

商業科活動紹介

～全国高等学校生徒商業研究発表大会秋田県予選

全県優勝～



7月13日に行われた第31回全国高等学校生徒商業研究発表大会秋田県予選に、AKISHOP地元生産者班が参加しました。この大会は、商業科目を学ぶ高校生が研究テーマを設定し、その研究の成果を発表するものです。今年度は、生産者の思いを汲みながら秋田の魅力発信に向けて取り組んだという内容の発表で、18年ぶりの全県優勝となりました。

商業だけでなく、農業や製造業など産業全体に目を向けた発表であり、産業教育フェアや秋田県産業教育審議会でも発表し、多方面から高い評価をいただきました。

【タイトル】

「Sixth Industrialization From AKISHO ～売れないものに付加価値を～」

【発表者】

櫻田結芽さん（3A）、下田陽翔さん（3B）、宇佐美綾乃さん（3E）

加藤之愛さん（3F）、佐藤帆乃咲さん（3F）

【発表内容】

秋田県の農業課題に着目し、「農業×加工業×商業の協働」（6次産業化）によって、消費者のニーズに応える魅力ある商品を開発し、地域のPRにつなげるための活動内容を発表しました。規格外の野菜を加工して新たな価値を生み出す商品開発や販売を通して、販路拡大などプロモーションに関する新たな課題も見ることができました。

卒業生の活躍について（詳細は裏面）

本校卒業生で、野球ビジネスに関する会社を経営し、SDGsを実践している米沢谷友広さん（高52期：硬式野球部）から、お話を伺うことができました。

秋田商業高校で勉強したことがどのように役立っているか、在校生へのメッセージなど、今勉強していることが世の中どのようにつながっているかを考えながら裏面の記事ぜひ読んでください。

お忙しい中、後輩のためならと快くお引き受けいただいた米沢谷友広さんに感謝申し上げます。ありがとうございます。

裏面ににつづく

○どのような仕事をしていますか？また、その仕事をするようになったきっかけは何ですか？

2017年から野球ビジネスの会社を運営しています。メインは、使い古された野球グローブを再生して販売する「Re-Birth(リバース)」です。東京都内に4店舗と全国のお客様に向けたオンラインサイトを運営しています。野球グローブはハンドメイドの革製品ですので、大事にメンテナンスやリメイクすれば30年以上使うことができますが、「何年も自宅に眠っていたり、廃棄されたりすることが多い」という情報を耳にし、「グローブを再生する技術があれば、使われなくなったグローブを生まれ変わらせて次のプレイヤーに繋いでいくことができる」と考え、このRe-Birth事業を着想しました。今後もお客様満足を追求した新しい価値を創出し、持続可能な野球環境をつくっていききたいと考えています。

○高校時代に頑張ったことや印象に残っていることは何ですか？

3年生の時に出場した甲子園です。石川投手(東京ヤクルトスワローズ)に憧れ、甲子園を目指して横浜市から入学。下宿生活をしながら毎日野球に打ち込みました。夏の県大会決勝では捕津投手(元ソフトバンクホークス)と対戦。チーム一丸となつて見事勝利しました。一番の思い出は、硬式野球部に入部した同期31名が1人も辞めることなく、全員で甲子園に行けたことです。夏の大会前に同級生が部誌に書いた「1日は長く、3年間はあっという間だった。3年にとつて最後の夏。みんなと最高の夏にしたい」という言葉は今でも鮮明に覚えています。

○在校生へのメッセージ

私の好きな言葉に、孔子の「天才は努力する者に勝てず、努力する者は楽しむ者に勝てない」という格言があります。みなさんにも好きなことや得意なことがきくとあると思います。もしかしたら在学中に見つかったり、すでにあるのに気づいていないだけかもしれません。ぜひ、残りの秋商ライブを仲間と楽しみ、次のステップでも好きなことや得意なことを伸ばし、そして楽しみながら人生を切り拓いていただきたいと願っています。

○プロフィール

名前：米沢谷 友広(よねざわや ともひろ)

出身中学校：横浜市立金沢中学校

卒業年：2001年3月(高52期)

在学中の所属部活名：硬式野球部



秋商硬式野球部の先輩が30年前に使用していたグローブを再生



Before



After

○秋田商業高校で学んだこと、経験したことがどのように役立っていますか？

簿記です。前校長の山脇聡先生が担任で、授業は簡潔明瞭、楽しく、時に厳しく、相当鍛えられました。簿記によって得られる会計知識や経験はビジネスをしていくうえで必要不可欠です。クラウド化、そしてAI化していく社会ではありますが、簿記をはじめとした商業科目の構造を知り、機動的に活用していくことは将来にわたって普遍的に役立つことと考えています。私の場合、会社を経営していくうえでは勿論のこと、起業前に勤めていたAmazon Japanへの転職時もマネジメントスキル、ファイナンススキルの1つとして高く評価されました。秋商で習った基礎を応用して使いこなし、自分の経験としてアウトプットし続けると、思わぬところで「高校時代に努力したことが強みに変わる」と感じています。



左から2人目が米沢谷さん→

高等学校中堅教諭等資質向上研修を受講して

保健体育科 藤原 淳一

1 校外研修について

①センター研修

I 期	6月27日(火)	【開講式】 中堅教諭等への期待 ○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略 ○学校の危機管理 ○学校組織の一員として①ーリーダーシップー
II 期	8月2日(水)	○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進
III 期	8月24日(木)	○いじめの理解と対応 ○気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解
IV 期	10月12日(木)	○教育活動全体を通じたキャリア教育 ○学校全体で取り組む情報教育 ○人間としての在り方生き方を考える道德教育
V 期	1月9日(火) (オンライン)	○教育公務員の服務 ○学校組織の一員として②ーキャリアデザイナーー ○これからの学校教育 【閉講式】 中堅教諭等資質向上研修を終えるにあたって

I 期では、「質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略」として、秋田大学大学院 成田雅樹 教授の講義を受講した。成田先生はまず、質の高い授業研究を「やる気」を持って、かつ「無理せず」行うためには、「方略」が重要であると述べられた。「方略」については、「歴史的」「哲学的」「科学的」の3つの視点で説明された。「歴史的」な視点では、明治期から続く授業研究の経緯のほか、近現代の状況について述べられた。そして最新の授業研究のKeyconceptは「省察」であり、それを技術的、実践的、批判的に行うことが必要であるとした。「哲学的」な視点では、授業研究が組織的であるか、生産的であるか、計画的であるかが重要であり、そのためには発展的なPDCAサイクルの構築が重要であるとした。「科学的」な視点では、授業研究の方法について説明され、発展的なPDCAサイクルに基づいた計画と、多様性や重層性のある方法で実施していくことが重要であると述べられた。理論的な概論から具体的な方法論まで多岐にわたる内容の講義をいただき、充実した時間となった。

II 期は教科指導の研修で、総合教育センター 月居克夫 指導主事から御指導をいただいた。保健体育科教員が研修者として4名参加し、各研修者が事前にビデオ録画した授業を視聴しながら評価しあう形式の研修となった。他の先生方の授業参観をしたことや、月居先生をはじめ他の研修者の先生方から自分の授業についての評価をいただいたことが大変参考になった。

III 期は生徒指導に関する研修で、主にいじめと、気になる生徒の事例研究を行った。いじめ

の現状について改めて理解できたとともに、改めて生徒の訴えに真剣さと共感を持って対応すること、初期対応が重要であること実感した。

Ⅳ期はキャリア教育、情報教育、道德教育の研修であり、この中でも特に印象に残ったのはキャリア教育の研修だった。キャリア教育は学校の教育課程全体で行われなければならないものだが、自分にとっては、その中で自分の役割は何なのか、ということがあまり明確でなかった。今回の研修で、教科等を通じた日々の学びや、地域・企業等との連携による体験を通じた学びから、生徒自身が学校において、教科等の意義の認識が深まっていくことをねらうのがキャリア教育の営みであると理解することができ、自分の教科においてもキャリアを意識した学びを提示していく意識を、より強く持つことができた。

Ⅴ期はオンラインで行われ、講義によって改めて教育公務員の服務について確認できたとともに、自分の強みや今後のミッションなどについてグループワークで発表し合う活動を通して、今後組織の一員として自分のキャリアをどう進めていくかについて考えることができた。

② 選択研修

選択研修では企業におけるコンプライアンスやガバナンス、マネジメントについて学び、これから中堅教員として必要とされるマネジメント力を身に付けるとともに、企業において日頃行われているビジネス諸活動を体験する中で、発想力や実践的なコミュニケーション力といったビジネスにおける諸課題を解決するための力について学んで生徒の指導に生かしたいと考え、鈴成建設株式会社の鈴木様に研修を依頼した。

普段と全く異なる分野のマネジメントに触れ、今後の参考になるよい経験をさせていただいた。また、コンプライアンスやガバナンス、コミュニケーションについても、普段と違う分野の体験をしたことで、自分のこれまでのやり方を見直すいい機会となった。今後の業務に生かしていきたい。

③ 授業研修

授業研修は、9月6日(水)に秋田西高校の2年生のクラスで保健の授業を実施した。他校での実施ということで、いつも以上に細かい配慮や準備が必要となったが、授業の際に必要な準備について細かく再確認する良い機会となった。

「労働と健康」の単元を実施した。授業では主に「思考・判断・表現」について評価することにし、学習指導案を作成した。学んだ知識を元にして、働く人の健康の保持増進のための職場の取組について、課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートに記述したりして、筋道を立てて説明しているかを見取ることにした。秋田西高校の生徒は積極的にグループワークを行ってくれて、円滑に授業を進めることができ、ねらいも達成できたように思う。

授業後の協議では、保健体育課の山崎幸介主任指導主事を始め、秋田西高校の先生方や一緒に研修した保健体育の研修者の先生方にご助言をいただき、授業展開や評価方法の工夫についての考えを深めることができた。

④ 校内研修

校内研修は、年間を通して行い、基礎的素養、教育課題への対応、マネジメント能力、生徒指導力、教科等指導力について先生方から様々なご指導をいただいた。この中で、教育法規はいじめに関する問題、教育課題では新秋田元気創造プランについて学ばせていただいた。また、生徒指導は研修会資料を基に協議をした他、進路は本校の進路状況について伺うことができた。教科指導は校内授業研修やアピール授業、他の先生方の授業参観をさせていただき、担当の先生方に御指導いただきながら、自分の教科指導力の向上につなげることができた。

ご指導いただいた先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げたい。

2 これまでの10年を振り返って

中堅教諭等資質向上研修を通して、ミドルリーダーに必要とされる資質について、「あきたキャリアアップシート」による評価をもとに、自身のこれまでの取り組みの確認や評価を行うことができた。

秋田県教職員キャリア指標で最終評価を行ったところ、求められる資質能力においてマネジメント能力や生徒指導力の分野で課題の残る評価が多かった。今後学校運営に主体的に参画していくことができるよう、継続的に研修して指導力を高めていきたい。

第3ステージ（目安：11年目～）実践的指導力充実期

個人情報

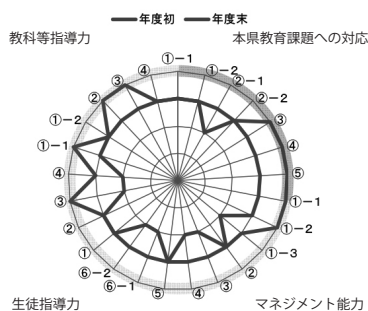
所属	校種	氏名	教職経歴
秋田市立秋田商業	高等学校	藤原淳一	11
2023/6/27	2023/6/27	2023/12/22	
178	178		

本県の教育課題への対応								マネジメント能力								生徒指導力				教科等指導力					
	①-1	①-2	②-1	②-2	③	④	⑤	①-1	①-2	①-3	②	③	④	⑤	⑥-1	⑥-2	①	②	③	④	①-1	①-2	②	③	④
年度初	3	3	2	3	3	3	3	3	3	2	3	2	2	3	2	2	3	3	2	2	3	3	3	3	3
重 点	0	0	0	0	◎	0	0	0	0	0	0	0	○	0	0	0	0	0	○	0	○	0	0	0	0
年度末	3	3	3	3	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	4	3	4	4	3
	2.86							2.44								2.50				3.00					
	3.43							3.22								3.25				3.60					

研修のあしあと

期 日	研修名	主な研修内容
6月 27日 ~ 6月 27日	中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）Ⅰ期	○中堅教諭等への期待 ○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略 ○学校の危機管理 ○学校組織の一員として
8月 2日 ~ 8月 2日	中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）Ⅱ期	○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進
8月 3日 ~ 8月 6日	中堅教諭等資質向上研修講座 選択研修	社会体験研修
8月 24日 ~ 8月 24日	中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）Ⅲ期	○いじめの理解と対応 ○気になる生徒の事例を通じた具体的な対応の理解
9月 5日 ~ 10月 0日	公立高等学校中堅教諭等資質向上研修「授業研修」	授業実践、授業参観、研究協議
10月 12日 ~ 10月 12日	中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）Ⅳ期	○教育活動全体を通じたキャリア教育 ○学校全体で取り組む情報教育 ○人間としての在り方生き方を考える道徳教育
1月 9日 ~ 1月 9日	中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）Ⅴ期	○教育公務員の職務 ○学校組織の一員として ○これからの学校教育 ○中堅教諭等資質向上研修を終えるに当たって
1月 16日 ~ 0月 0日	秋田県高等学校教育研究会保健体育部会研究協議会	○保健体育授業の研究発表参観 ○基調講演聴講
0月 0日 ~ 0月 0日		0
0月 0日 ~ 0月 0日		0
0月 0日 ~ 0月 0日		0
0月 0日 ~ 0月 0日		0
0月 0日 ~ 0月 0日		0

「あきたキャリアアップシート」 自己評価



選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 藤 原 淳 一
研 修 先	鈴成建設株式会社		
研 修 期 間	令和5年8月3日(木)、令和5年8月5日(土)、6日(日)		
1 研修の概要 8月3日(木) 9:30～10:45 オリエンテーション・事業説明 11:00～12:00 業務打ち合わせ参加 13:00～15:30 現場見学 16:00～17:00 ミーティング 8月5日(土) 9:30～10:00 打合せ 10:00～12:00 業務打ち合わせ参加 12:00～13:00 昼休み 13:00～16:00 現場見学・作業体験 8月6日(日) 9:30～10:00 打ち合わせ 10:00～12:00 業務打ち合わせ参加 12:00～13:00 昼休み 13:00～16:00 現場見学・作業体験 2 研修の成果(今後への生かし方も含むこと) 今回は企業におけるコンプライアンスやガバナンス、マネジメントについて学び、これから中堅教員として必要とされるマネジメント力を身に付けるとともに、企業において日頃行われているビジネス諸活動を体験する中で、発想力や実践的なコミュニケーション力といったビジネスにおける諸課題を解決するための力について学んで生徒の指導に生かしたいと考え、鈴成建設株式会社の鈴木様に研修を依頼した。 鈴成建設株式会社は地域に根ざして大潟村の発展に貢献してきた企業であり、土木工事、建築工事、鋼構造物工事、舗装工事、しゅんせつ工事、造園工事、水道施設工事など幅広い内容で事業を展開している。1964年に干拓により生まれ、水路と農地に囲まれた大潟村では多くの土木工事があり、大小様々な工事を請け負っているほか、かつては県道298号線(通称:桜並木と菜の花ロード)沿いにある大潟富士(海拔0メートルの日本一低い山)の築山にも関わるなど、地域貢献をしてきた。 土木工事の打ち合わせや現場作業に従事させていただいた。打ち合わせでは、工事は様々な法令を遵守して行われていること、不正防止、事故の防止、クリーンなイメージ作りのためにガバナンスが重要であること、様々な事業を効率的に運営・進捗させていくためにマネジメントが必要不可欠であることが理解できた。また、工事などの事業は大規模になると自社単独での請負が難しくなるため、必然的に数社で協力することとなる。その際、役割分担、協力関係などコミュニケーションをとって進めていくこととなる。必要なことを正確に相手方に伝える力、相手方の言い分を確実に受け取る力といったコミュニケーション能力が不可欠であることがよくわかった。 作業体験では、舗装の補修工事の手伝いをさせていただいた。人力でやる部分は少なく、重機でアスファルトを撒いたり固めたりする作業がほとんどだったが、スコップでならしたり、物を運んだりなどをさせていただいた。夏の暑い中ではあったが、体調に気をつけながら作業をした。他の作業員の方々と協力しながら行うために、コミュニケーションをとり、作業内容を正確に理解しながら行う必要があった。 日ごろ教員として勤務する中で、自分には先を見通し計画を立て、実行して評価する、といったマネジメント能力が欠けているように感じてきた。今回中堅教諭等資質向上研修の機会をいただき、普段と全く異なる分野のマネジメントに触れ、今後の参考になるよい経験をさせていただいた。また、コンプライアンスやガバナンス、コミュニケーションについても、普段と違う分野の体験をしたことで、自分のこれまでのやり方を見直すいい機会となった。今後の業務に生かしていきたい。 最後に、お忙しいところ受け入れていただいた会社の皆様に、改めて感謝の意を表したい。			

第2学年 保健体育科(保健) 学習指導案

日 時 令和5年9月5日(火) 4校時
 クラス 秋田西高校 2年A組(33名)
 教科書 現代高等保健体育(大修館書店)
 授業者 藤原 淳一(秋田商業高校)

1 単元名 (3)生涯を通じる健康 (イ)労働と健康

2 単元の目標

(1) 「知識及び技能」に関する目標

労働災害と健康や働く人の健康の保持増進について、理解することができるようにする。

(2) 「思考力・判断力・表現力等」に関する目標

労働と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明できるようにする。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

労働災害と健康、働く人の健康の保持増進について、自他の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

3 生徒と単元

男子15名、女子18名の計33名のクラスである。落ち着きがあり、説明や記述する課題には集中して取り組むことができる。しかし、話し合い活動で自分の考えを表現することには消極的なようである。そのため、グループ活動によって自分の解釈や考えを伝える場面を設け、他者のよい考えを共有したりすることで、本項目についての理解を深めつつ、生徒の思考力・判断力を高めるようにしたい。

高校2年生にとって、労働に関する事項は重要な内容である。進路選択に関わるだけでなく、どのようなことに気を付けて健康を維持して働くか、またどうすれば健康的な職場環境をつくれるか、などを今から意識することは、大人としての生き方あり方につながってくると考える。生徒一人一人が、自分が働く姿を想像しながら、自分に起こり得ることとして捉えて授業に取り組んでほしい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量に変化してきたこと、また、労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働を始めとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを発言したり書いたりしている。</p> <p>②働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つこと、労働と健康に関する法律等が制定された背景や趣旨について、理解したことを発言したり書いたりしている。</p> <p>③働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどにより、健康の保持増進をすることが重要であることについて、理解したことを発言したり書いたりしている。</p>	<p>①労働災害と健康について、情報を整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見するとともに、個人の取組と社会的対策を整理して、労働災害を防止するための方策を選択している。</p> <p>②働く人の健康の保持増進のための職場の取組について、課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	<p>①労働災害と健康・働く人の健康の保持増進について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

5 指導と評価の計画

	主な学習活動	知	思	態	評価方法
1	<p>1 働くことによる健康問題や病気について、過去にどのような問題や病気があったかを調べ、ワークシートにまとめる。</p> <p>2 産業構造の変化に伴い、働き方の多様化が進んでいることについて、説明を聞く。</p> <p>3 産業構造や労働形態の変化に伴って健康面にどのような変化が現れたかを、資料をもとに整理する。</p> <p>4 過重労働などが原因でストレスを強く感じたり、過労死や自殺にいたりすることがあることについて説明を聞く。</p>	①			ワークシート
2	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 労働災害が発生した事例をもとに、労働環境を改善し、安全な職場の整備を推進するための方策について考える。</p> <p>3 働く人の健康状態を把握するための方策及び職場における健康増進活動について説明を聞く。</p> <p>4 労働者の健康保持について、健康診断の意義や健康診断の結果を踏まえた適切な事後措置を考える。</p> <p>5 労働災害を防止するための方策について、ワークシートにまとめる。</p>	②	①		観察 ワークシート
3 (本時)	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 職場の健康管理や心身両面にわたる対策、ハラスメントへの対策の重要性についての説明を聞く。</p> <p>3 自分が経営者だったら従業員の健康づくりのためにどのような取組ができるかを個人及びグループで考え、発表する。</p> <p>4 労働と健康に関する法律等が制定された背景や余暇の有効活用について説明を聞く。</p> <p>5 単元を振り返り、学習したことをこれからの生活にどのように生かしていくかをワークシートにまとめる。</p>	③	②	①	観察 ワークシート

6 本時の計画

(1) 本時の目標


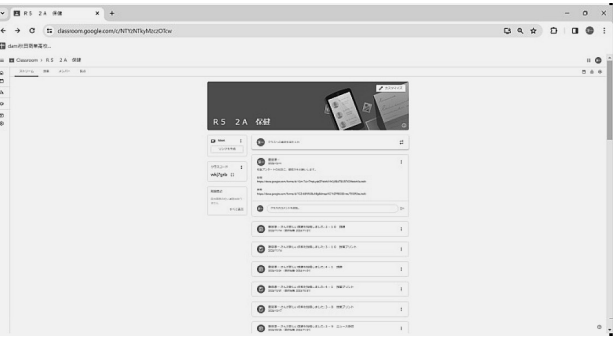
- 働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて理解できるようにする。
- ◎働く人の健康の保持増進のための職場の取組について、課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートに記述したりして、筋道を立てて説明できるようにする。

(2) 展 開

	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入 5分	1 前時の振り返りをする。 2 本時の内容・目標の確認	○労働災害の防止について、前時の学習内容を確認する。 ○本時の学習内容を提示し、目標や活動内容について理解できるようにする。	
展開 40分	3 職場の健康管理や心身両面にわたる対策、ハラスメントへの対策の重要性についての説明を聞く。 4 ストレスチェックに取り組み、結果を周囲の人と共有してみる。 5 事業所の事例を読み、問題点とその理由についてワークシートにまとめる。(個人で) 6 自分が経営者だったとして、従業員の健康づくりのためにどのような取組ができるかを考え、グループで意見を出し合ってまとめる。班ごとに発表する。 7 仕事と生活の調和について、教科書を参照しながら説明を聞く。	○前時で学習した労働災害の防止についても触れながら説明する。 ○結果をもとに、ストレスへの気づき、メンタルヘルスケアの重要性について説明する。 ○なぜ問題があると考えたか、具体的に記述するよう指示する。 ○事例を通して問題点を発見し、次の活動への気づきを得られるよう助言する。 ○発表のために、ワークシートをまとめておくよう助言する。 ○1時間目の授業内容にも触れながら、多様な働き方や生き方があること、余暇を有効に活用することなどを説明する。	〈思考・判断・表現－②〉働く人の健康の保持増進のための職場の取組について、課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートに記述したりして、筋道を立てて説明している。(観察・ワークシート)
まとめ 5分	8 単元を振り返り、学習したことをこれからの生活にどのように生かしていくかをワークシートにまとめる。	○将来の職業生活をイメージして、自分に起こり得ることとして考えながらまとめるよう助言する。	〈主体的に学習に取り組む態度－①〉働く人の健康の保持増進について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとしている。(観察・ワークシート)

※本時の評価規準のうち、知識・技能に関しては、ワークシートの記載内容によって後日評価する。

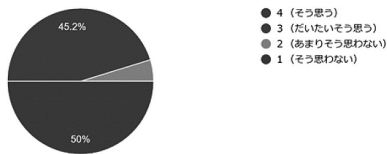
特定課題研究レポート

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 藤 原 淳 一
研 究 内 容	A：本県教育課題に関する研究 C：生徒指導に関する研究 E：道徳教育に関する研究 G：総合的な探究の時間に関する研究 I：その他 B：マネジメントに関する研究 ④：教科指導に関する研究 F：特別活動に関する研究 H：特別支援教育に関する研究		
研究テーマ	Googleアプリケーションを利用した保健体育の教科指導について		
<p>1 研究の概要</p> <p>本校では令和4年度から生徒に対して一人一台のタブレット端末が配付され、授業等でも積極的な活用が求められるようになった。自身の教科でも活用し、生徒の学ぶ意欲や考える力を高めたいという観点から、本テーマを設定した。</p> <p>昨年度中に試行錯誤をした結果、主に保健の授業で活用することとした。理由としては、体育の授業では運動時間を確保したいこと、体育館等の授業場所に持参すると破損の恐れがあることなどである。</p> <p>保健の授業は知識を身に付けるのもさることながら、自身の生活に置き換えて考え、今後の行動変容につなげること、生涯を通じて自らの健康や周囲の環境を管理・改善する資質能力を身につけることが大きな目標となっている。実際の授業においては、その目標を踏まえ、取り上げる単元に関連した事象を調べたり、それを元にしたレポート作成やグループ協議を行ったりすることが多いため、その調査や協議にGoogleアプリケーションを活用し、授業を進めることができるのではないかと考えた。</p> <p>紙媒体の資料は極力使用しないこととし、すべて一人一台端末内で、かつGoogleアプリケーション内で完結できるようにした。それにより、課題や家庭学習を自身のスマートフォンを始めとした個人のデバイスでも進められることにもなる。効率が良くなるだけでなく、生徒が自分のペースで学習に取り組むことができるようになることもねらいとした。</p> <p>担当している1クラスにおいて、7月と12月に行う授業アンケートの結果で比較し、学習意欲の高まりや、ICTの活用度などを検証することとした。</p> <p>〈授業内で実践したこと〉</p> <ul style="list-style-type: none">授業資料は全てGoogle Classroomで配付した。授業で使用するワークシートはワードで作成し、Googleドキュメントに変換して配付した。 生徒は授業内容の板書やパワーポイントを、ドキュメントに打ち込んでノートを取る形で進めた。課題提出はGoogle Classroomの「課題」機能を利用した。課題はレポートなどで、様式をエクセルで作成してGoogleスプレッドシートに変換して配付した。グループ協議にはワークシートの他、Google Jamboardを活用した。アンケートはGoogle Formsで配付した。 <div><div><p>(Classroomでの資料や課題の配付の様子)</p></div><div><p>(Jamboardでの協議の様子)</p></div></div>			

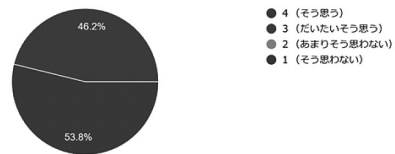
2 成果と課題

〈授業アンケートの結果〉

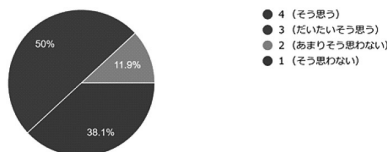
④授業で得られた知識などを活用して考える時間が設けられている。
42 件の回答



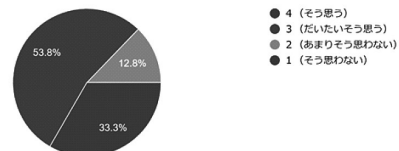
④授業で得られた知識などを活用して考える時間が設けられている。
39 件の回答



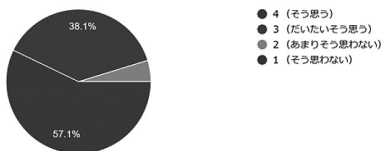
⑨授業で学んだことをさらに発展させて、もっと深く学びたいと思う。
42 件の回答



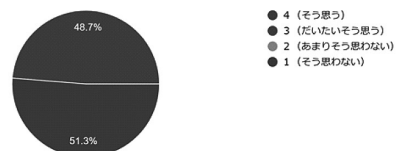
⑨授業で学んだことをさらに発展させて、もっと深く学びたいと思う。
39 件の回答



⑫自分は、授業で学ぶことに興味や関心をもち、粘り強く学習に取り組んでいる。
42 件の回答



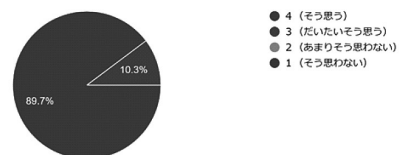
⑫自分は、授業で学ぶことに興味や関心をもち、粘り強く学習に取り組んでいる。
39 件の回答



⑩授業ではタブレットなどのICT機器が積極的に使われている。
42 件の回答



⑩授業ではタブレットなどのICT機器が積極的に使われている。
39 件の回答



アンケート 自由記述欄の記載から

〈7月〉

- ・自分の人生において大切なことを学べるのでうれしい。
- ・考査の学習がしづらいので授業のワークシートを紙で印刷してほしい。
- ・タブレットを利用したシートは、家だと学習しにくい感じがしました。テスト前に復習することを考えると、紙のプリントの方がやりやすいと思います。授業の進むスピードはちょうど良いです。

〈12月〉

- ・授業で使ったものをテスト前に印刷してくれて勉強しやすかった。

〈考察と今後の課題〉

アンケートの結果を見ると、「考える時間が設けられている」という項目は数値の向上が見られたとともに、「授業ではICT機器が積極的に使われている」の項目では否定的回答がなく、端末の積極的な活用が功を奏したと考えている。また、授業の意欲に関わるような「授業で学ぶことに興味を持ち、粘り強く学習に取り組んでいる」の項目では「あまりそう思わない」といった否定的な回答がなくなったため、端末を活用し考える活動を行ったことに、一定の効果はあったものと思われる。

しかし、今後の行動変容につながるような「授業で学んだことを更に発展させて、もっと深く学びたいと思う」の項目では、やや数値の低下が見られた。好意的な回答ではあるものの、もっと深掘りしたり、深く考えさせるような授業展開の工夫が必要だと感じた。

自由記述では上記のような回答があり、アンケート外でも要望が多かったため、結局ワークシートを両面刷りで印刷して配付した。

1年間課題研究を実施してみて、保健の授業においてGoogleアプリケーションを活用することは教科の目標達成のためにとっても有用であることが分かった。今後はより効果的な活用を念頭に置いて、授業改善に努めていきたい。

秋田県総合教育センター研修に参加して

受講講座 C-30 C-33

教諭 佐々木 一 秀

講座名 C-30 発達の段階に応じた情報モラル教育の理解と実践

研修の目的 情報教育の現状と課題を理解し、生きて働く知恵を磨く情報モラル教育を系統的・継続的に進めることができるよう指導力の向上を図る。

期 日 令和5年9月5日(火)

場 所 オンライン研修

【日程と内容】

- ・講 義 安全への知恵と情報セキュリティ
講 師 株式会社ミヤノモリ・ラボラトリー 代表取締役 高橋 大洋 様
- ・講義・演習 情報活用能力の育成について
講 師 秋田県総合教育センター 指 導 主 事 鈴木 紀子 先生
- ・公開演習 「1人1台端末環境に求められる情報活用能力としての情報モラル教育」
講 師 静岡大学教育学部 准 教 授 塩田 真吾 先生

◎安全への知恵と情報セキュリティ

○情報モラル教育の全体像と指導の前提

- ・学習指導要領上の情報モラルは、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度であり、他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任を持つことや、犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康と関わりを理解させる。

○子どもたちの学校外でのネット利用

- ・「情報社会の倫理」「法の理解と遵守」「安全への知恵」「情報セキュリティ」を指導し、心を磨く領域と知恵を磨く領域を育み、公共的なネットワーク社会を構築する社会の一員としての利用を目指す。

○「安全への知恵」「情報セキュリティ」領域での指導のポイント

- ・情報社会の危険から身を守り、危険を予測し、被害を予防する知識や態度を育む。
小 学 校・・・危険なものには近づかない。もし、不適切な情報に出会ったら大人に相談するなど適切に対応できる態度を育む。
中学・高等学校・・・情報社会の特質を意識しながら安全に行動する態度や、自他の安全や健康に配慮した情報メディアとの関わり方を学ぶ。
- ・生活の中で必要となる情報セキュリティの基本的な考え方、情報セキュリティを確保するための対策・対応についての知識を育む。
小 学 校・・・IDやパスワードの保護や不正使用・アクセスの防止などを学ぶ。
中学・高等学校・・・情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、セキュリティ対策の立て方を学ぶ。
- ・ネット利用トラブル経験率と内容

令和4年度におけるスマートフォン等、インターネット利用実態調査(秋田県教育庁義務教育課)から、生徒達のネット利用トラブルは少ないが、携帯所持デビューの低年齢化と利用の長時間化への対応策を講じることが課題である。生徒の実態を把握しながら状況に応じて、従来の授業の中に情報モラルの視点を持った学習活動や各教科等において指導するタイミングをうまく設定したり、繰り返し指導したりすることが大切である。

◎情報活用能力の育成について

○児童生徒の情報活用能力について

- ・GIGAスクール構想「ICTの『学び』への活用」が進んでいる反面、情報モラル教育が進んでいない現状がある。
- ・情報活用能力の育成は、プログラミング教育と情報モラル教育の2軸で指導。
- ・ネットリテラシー（インターネットを使いこなす能力）の育成。
- ・デジタルシティズンシップ教育の推進をする。「してはいけません。」という指導から「こんなときどうする。」という自律型問題解決学習の取組。

○学校における著作権と児童生徒に関わる著作権について

- ・学校を含め、児童生徒を加害者にしないために著作権に関する知識や意識を持たせる育みをしてほしい。

※著作権とは、①「思想又は感情」を表現したもの。②「創造的に」表現したもの。③「表現」したもの。④「文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属する」ものに適用される。

○授業目的公衆送信保証金制度について

- ・一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会へ補償金を支払うことで、著作者の許諾なくオンライン授業での著作物利用が可能となった。

◎1人1台端末環境に求められる情報活用能力としての情報モラル教育

○情報活用能力とは

「情報を上手に活用する力＋情報のリスクに対応する力」であり、場当たりのトラブル対応だけではなく、計画的に情報モラルを含む情報活用能力を育てることにある。

○「リスク」とは

リスク＝発生の確率×影響(被害)の大きさであり、その過程は①リスクへの自覚(自分事化)②リスクの発見(特定)③リスクの見積もり(分析・評価)④リスクへの対応(クライシス対応を含む)となる。

○「トラブルへの対応」とは

トラブルへの「自覚」を促し、「自分ごと」として考えさせる。「自分」と「相手」との認識の違いを意識させることにある。

○「リスクの見積もり力(危機予測)を高める」とは

リスクのグラデーションの発想を行い、危険を予測する力を育むことにある。

○「使いすぎのトラブルへの対応」とは

24時間の時間の使い方を比較し、タイムマネジメントの力を育て、「他者の命令の行動」と「自分の意思で判断」を見極め、将来のことを考えて「自律」の力を高めていくことにある。

○短時間で指導するためには

- ・事例中心の指導方法からの脱却
- ・新規の問題解決に有効な考え方を育成

「心情重視型」(葛藤場面を設け、よくない行為を思いとどまらせる)、「ルール重視型」(さまざまな場面・状況で守るべきルールを知識として暗記させる)ともに、十分な指導時間の確保が前提である。「道徳的規範の知識」「情報技術の知識」「合理的判断の知識」を分け、情報モラル判断のための枠組みを指導する。

講座名	C-33 高等学校におけるプログラミング演習
研修の目的	高等学校におけるプログラミングについて、基礎的な理解を深めるとともに、実践を通じて知識と技術を身に付ける。
期 日	令和5年8月4日(金)
場 所	秋田県総合教育センター

【日程と内容】

- ・講 義 小・中学校におけるプログラミング教育と高等学校プログラミングの要点
 - ・演 習 初歩から始めるPythonの演習
- 講 師 秋田県立大学 システム科学技術学部 情報工学科 准教授 廣田 千明 先生

◎小・中学校におけるプログラミング教育と高等学校プログラミングの要点

- (1) 社会の変化
 - ・顔認証でチケットレス、ドローンの宅配、自動運転車、無人のコンビニ、紙幣から電子マネーへと昔にあったものがなくなろうとしている。
- (2) 革命的な仕事の変化(技術革新の急速な進展)
 - 第1次産業革命の教訓
 - ・手作業の仕事がなくなり、機械のメンテナンスなどの新しい仕事へと変化した。
 - ・機械のメンテナンスを習っていないので、新しい仕事に就けた人は多くなく、仕事はあるが失業者が増えた。
 - ・ChatGPTの登場により、変化が加速することが予想されている。
 - 文部科学省、小学校プログラミング教育の趣旨と計画的な準備の必要性について
 - ・シンギュラリティ
 - ・人のアイデアより技術の進歩が必要になってきている。(秋田県子どもプログラミング教育研究会 https://prog.akita-pu.ac.jp/?page_id=3196)
 - ・機械翻訳のプログラムについて、入力する側の人間の利用の仕方が重要である。
 - 言葉とデータを正確に捉える能力の育成が求められている。
 - ・「やさしい日本語」
 - ・世界の人口と二酸化炭素濃度・・・人口と二酸化炭素の量には強い相関がある。
 - ・現在のAIの回答と現実性の誤差
 - 日本の抱える問題
 - ・労働生産性が低い・・・大学生になると学ばなくなる。
 - ・日本式外貨の稼ぎ方は、外国で起こったイノベーションをもとに低価格化や多機能化で商品開発してきた。現在はイノベーションを起こせる人材の育成はできていない。
 - ・学校の学びを活用できていない。
(探求の道具として、教科の学びや情報活用能力を育成する。)
 - ・物事の背景をしっかりと説明することの大切さ。
- (3) プログラミング教育の強化
 - プログラミング的思考
 - ・目標を持たせる ・組み合わせを論理的に考えさせる。
 - ・試行錯誤して改善していく過程が大事である。
 - ・生徒の学力に応じた課題の準備が必要である。
 - ・感染症対策等のシミュレート説明：難しいもので説明する方が人は納得する。

◎初歩から始めるPythonの実習

Pythonプログラミングの基礎を演習した。

Society5.0に向けた「情報活用能力」の育成を目指して

教諭 佐々木 一 秀

I 研究テーマの設定理由

内閣府が提唱する「Society5.0のビッグデータ連携がもたらす未来社会像」を見据え、これからの商業科における情報教育は、限られた分野の専門的知識を身に付けるだけではなく、データ分析・活用(ものづくり)やシステム開発(ものづくり)といった広い範囲の知識を基礎として、我が国の持続的な発展に寄与するための学習に変容すると予想される。

その中で「情報活用能力」は、教科等の枠を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用されるものとして期待されており、様々なデータを分析・活用して、有益な情報を生み出す事やそれに伴うシステム開発能力は、これからの時代に必要な資質であるといわれている。

この資質を育むためには、実践的・体験的な学習等の調査データ等を教材として利活用した授業実践にあると考えた。

本校では、「総合的な探究の時間」の中の「AKISHOP」において商品開発から販売実習までの一連の流れを学習する。この活動データを利活用して、生徒の興味・関心を引き出し、学習内容をイメージ・理解しやすい授業について、アンケート分析等を基に「情報活用能力」を育む授業研究を行った。研究対象科目は、情報コースにおいて総括的な科目であるビジネス情報管理を選択した。

II 研究内容

1. 本校における情報に関する学習状況と意識

(対象：2022年度の情報コース2・3年生84名)

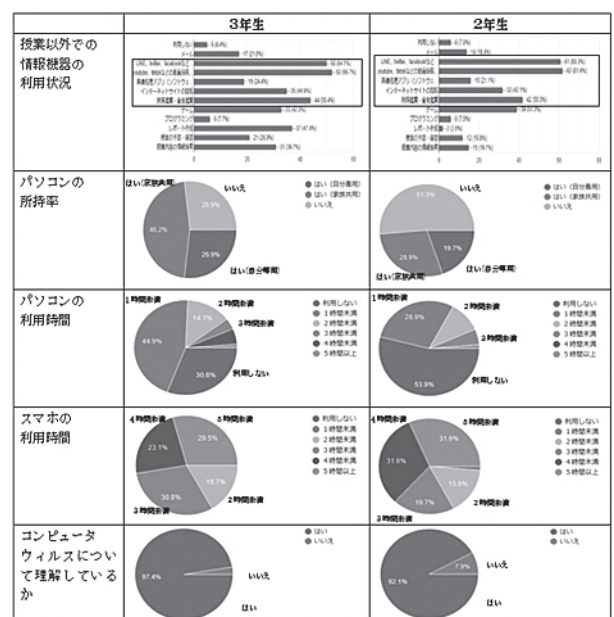
3年生の授業以外での情報機器の利用状況

は、LINEやTikTok、インターネットサイトの閲覧、映画鑑賞、ゲーム等の視聴や情報検索ツールとして利用しているという結果であった。

また、授業以外ではパソコンを操作する時間が少なく、スマホの利用時間が非常に長いという結果となっている。

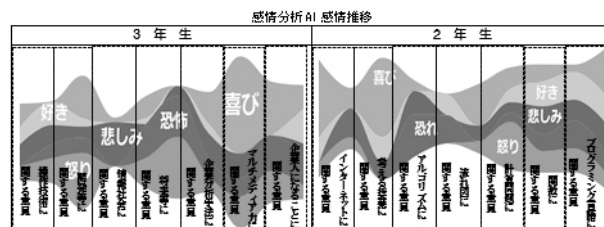
コンピュータウィルス等に関する情報モラルの意識や存在の有無、対策状況に関する知識や技術については、「習得している」との回答が多かった。

特筆すべきは2年生の自宅パソコンの所持率が3年生の所持率と比べて約20%減少していることである。スマホ機能が文書作成ソフトや表計算、画像処理、動画作成等をフリック操作で簡単に作成できるように進歩したこと、持ち運びやすく複雑な設定も少ないことから、一定水準の知識と技術を要するパソコンを所有する必要性が薄れてきているからだと考える。



また、3年生における情報に関する中学校までの学習状況は、情報モラルに関する学習が中心であった。こちらも同様に2・3年生ともに変わらない結果であった。

多面的な視点から生徒の実態をとらえるため、「ワードクラウド」「共起ネットワーク図」「単語出現頻度」「2次元マップ」「階層的クラスター分析(デンドログラム)」「係り受け解析」「感情AIサマリー」「感情分析AI感情推移」の8種類を活用して自由記述のテキストマイニングをした。(以下、AIテキストマイニング資料の一部より)



自由記述において、生徒が表現した考えや意志について心理面との整合性があるかを捉えるために、「階層的クラスター分析」「係り受け解析」で検証した。この分析によると2・3年生双方において「知識」「知る」「学ぶ」の単語と他の集合体との距離に開きがあり、この授業に関する興味・関心と習得に対する意欲に大きな差異が生じていることがわかった。係り受け解析からも同様の結果がでており、「興味・関心」に関する事項に対しては、ポジティブな結果が出ているが、「ほしい」という言葉に関してはネガティブな結果として表れた。この要因を「感情分析AIサマリー」「感情分析AI感情推移」を用いて、生徒の感情的な部分から生徒の情報に関する学習に対しての意識分析を試みた。

– 87 –

また、自由記述の中に「学校で学習したことが実社会で必要とされているのかわからない。」という意見があった。「将来を見据えた高い知識や技術の定着に必要性をあまり感じていない。」「学習内容がどのように社会に活かされているのかわからない。」という生徒が少なからずいるようであった。

生徒は、ものづくりに関する学習に興味・関心があり、その意欲も非常に高い。しかし意識レベルでは、「習得したい」よりは「経験したい」という好奇心までに留まっているようである。このことを踏まえ、より実用的な授業が大切ではないかと考えた。

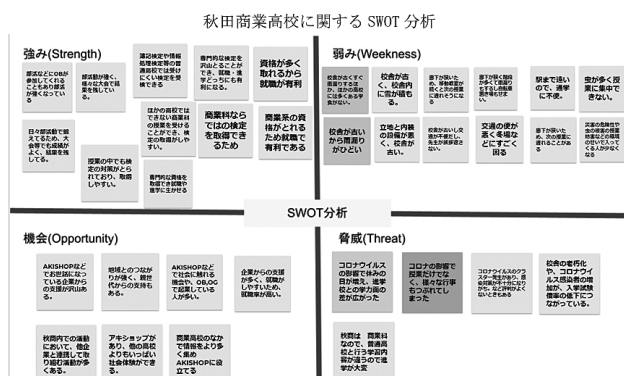
III 授業実践(社会で活用できる実用的な授業)

～ビジネス情報管理での授業実践～

1. Google Workspace For Educationを活用したSWOT分析の授業

1学期前半は、本校を教材として取り上げSWOT分析を行った。作業ツールとしてGoogleの中にある「Jamboard」を利用した。

パソコンに関心が高い生徒たちは積極的に学んでいた。また、人前で話すことが苦手な生徒からも数多くの意見を出すことができた。生徒たちは本校の特徴を捉え、コア・コンピタンス(強み)の発見や経営戦略の提案をしていた。



2. 「AKISHOP」データを活用した経営分析の授業

1学期後半には、ビジネス実践の活動であるAKISHOPについて、PPM分析やABC分析を行った。この分析により、AKISHOPがニッチャー的な存在であり、特定の商品に付加価値をつける集中戦略を主軸とした経営戦略が理想的であると結論づけた。生徒の視点から斬新なアイデアを出すことが、AKISHOPの独自の強みとなり、積極的に活動に参加する生徒が多くなった。

また分析は、手作業で行わせたことから、情報システム化することの大切さも体験できたと考える。

秋田市の人口世帯表と消費物価指数

項目	単位	2019年	2020年	2021年
人口	人	55,000	54,000	53,000
世帯数	世帯	22,000	21,000	20,000
消費物価指数	指数	100.0	101.5	103.0

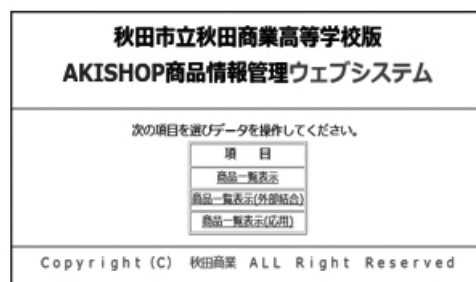
AKISHOP 開発商品売上表データ Excel 版 (一部抜粋)

品名	数量	単価	売上	原価	粗利
商品A	100	100	10,000	6,000	4,000
商品B	200	50	10,000	4,000	6,000
商品C	50	200	10,000	2,000	8,000

3. 「AKISHOP商品情報管理WEBシステム」の構築とアクティブラーニングを取り入れた授業

2学期は、AKISHOP開発商品売上表のデータベースの情報システム化を行った。実習は、形式知と経験知との両輪に調和がとれていないと授業展開も難しくなる。生徒たちは、WordやExcelといったアプリケーション操作の知識や技術の定着はなされているが、パソコン操作のトラブルに対する知識や耐性が無いに等しい。解決策として、アクティブラーニングのエキスパート法を取り入れ、習熟度の差を縮めながら、「失敗への耐性」と「良好な人間関係の構築」を目指した。

生徒が作成する3層クライアントサーバーシステム



Ⅳ 成果と課題

生徒の授業評価から、次の成果と課題が見えてきた。このことを今後の授業に活かしていきたい。

【成果】

- ・全体的に授業内容等の評価は高かった。
- ・身近なデータを教材として取り上げた授業は、学校の状況や改善点等をよく捉えることができ、開発商品について深く考え、積極的に授業に臨むことができた。
- ・システム開発に関する授業への取組は、アクティブラーニングを取り入れることで、授業に対する生徒の姿勢が徐々に変化し、仲間と課題を解決する楽しさを知ることができた。

【課題】

- ・システム開発等については居残り作業をする生徒が多く、時間内に課題解決できる内容に工夫する必要がある。
- ・システム化することは、社会に役立つものではあるが、プログラミング知識の難易度が高く、じっくり考えて理解できる時間を確保する必要がある。

編集後記

昨年度に1人1台タブレットが導入され、今年度は授業での効果的な活用方法や課題作成など、より一層ICT機器を活用した授業実践に力を入れた1年だったと感じます。研修部として貢献できたかは分かりませんが、私自身まだまだ思うようにいかないことが多々ありました。今後研修を重ね、指導力・授業力などのレベルアップに努めていきたいです。

小 山 壘

公開授業などでもICTの活用が多く、生徒にも浸透してきたように思います。自分自身も分からないことが多いですが、「おさらい会」などで少しずつ学び授業により活用できるようにと感じています。

山 崎 翼

鬼の首を取ったかのように「ICTを…、ICTの活用…」なる言葉が飛び交っている今日この頃、私のようなITの旧人類からすればパソコンを使いこなせることがICT？と思いながらの1年でした。最終的にパソコンを使うのは人であり、主役であることが変わらないと願いつつ、「Communication≡意思疎通、共感」を大事にしていきたいと思います。

渡 辺 淳 一

育休から約1年半ぶりに復帰しましたが、Google Classroom？フォーム？スプレッドシート？と育休中に導入された機能のほとんどがわからず、先生方に教えて頂いてばかりの1年でした。おかげさまで使い方をしっかり覚えることができ、授業公開週間などを通じて授業での様々な活用方法も学ぶ事ができました。今年度学んだ事を来年度の授業に積極的に取り入れていきたいと思っています。

秋 島 亜里紗

おかげさまで「研修集録第38号」がまとまりました。お忙しい中、寄稿いただいた先生方には深く感謝いたします。ありがとうございました。

今年度から、口頭連絡やインフォメーションの活用に加え、Google Classroom「研修部の部屋」を開設し、研修の一層の奨励を図りました。また、ICT推進委員会と連携し、ICTの活用に向けた研修、おさらい会などを複数回実施させていただきました。先生方には、様々な研修へのご参加とご協力をいただき、心より感謝しています。本当にありがとうございました。この1年を次年度につなげていただけるよう、本研修集録を今後の研修・研鑽の場に役立てていただければ幸いです。

山 崎 史 織

令和5年度 研修集録

発行日 令和6年3月
 発行者 秋田市立秋田商業高等学校
 〒010-1603 秋田市新屋勝平台1-1
 TEL 018-823-4308
 FAX 018-823-4310
 印刷所 株式会社 塚田美術印刷

表紙デザイン：柏谷 彩乃(3年E組)



校訓

感謝 勤勉 鍛鍊